取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

MARK X ZiO

TABLE OF CONTENTS
目次

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着されたかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

1
2
3
4
5
6

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

さくいん

外観

ヘッドライト（ロービーム）
P. 141
車幅灯 P. 141
ボンネット P. 234
ワイパー P. 146
ドアミラー P. 69
BTO00CB001
方向指示灯 P. 129
ヘッドライト（ハイビーム）
P. 141
薄暮灯 P. 141
方向指示灯 P. 129
フォグライト P. 145

給油口 P. 75
ドア P. 39
リヤウインドウ
デフォッガー P. 186
リヤワイパー P. 148
バックドア P. 42
BTO00CB002
番号灯 P. 141
尾灯 P. 141
方向指示灯 P. 129
タイヤ
●ローテーション P. 228
●交換 P. 291

室内

▶ 5 人乗り車を除く

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶５人乗り車

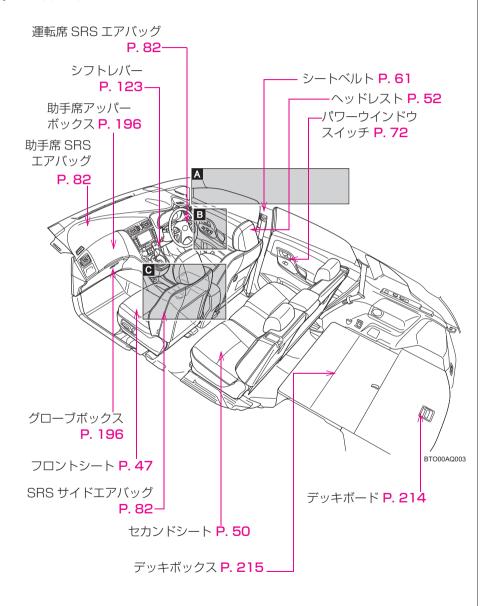
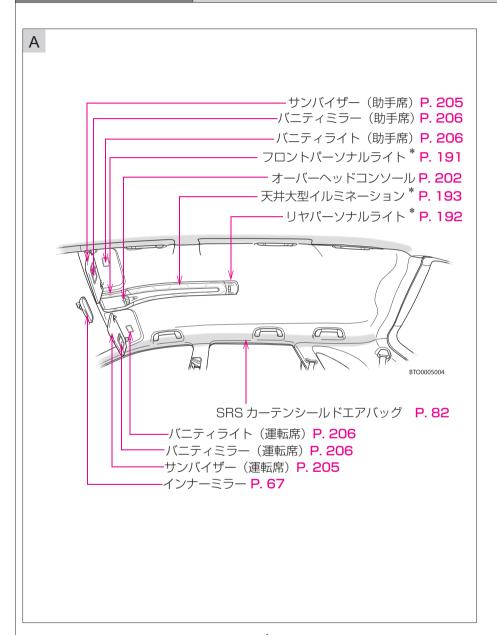
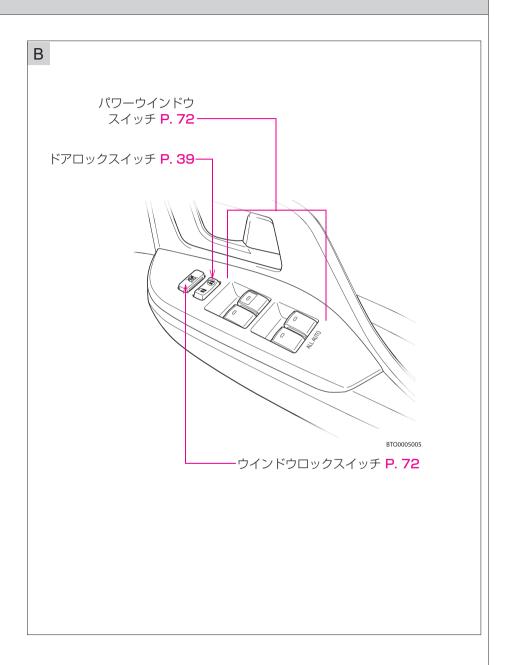
運転席 SRS エアバッグ
P. 82
シフトレバー
P. 123
助手席アッパーボックス P. 196
助手席 SRS エアバッグ
P. 82
シートベルト P. 61
ヘッドレスト P. 52
パワーウインドウスイッチ P. 72
A
B
C
グローブボックス
P. 196
フロントシート P. 47
SRS サイドエアバッグ
P. 82
セカンドシート P. 50
デッキボックス P. 215
デッキボード P. 214
BTO00AQ003

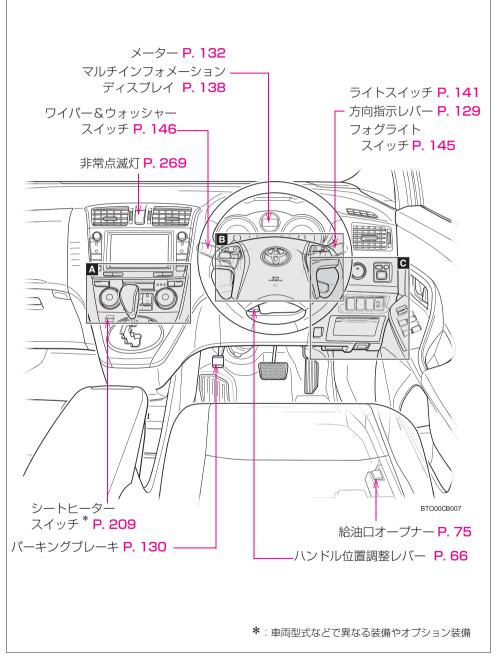
室内

A

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

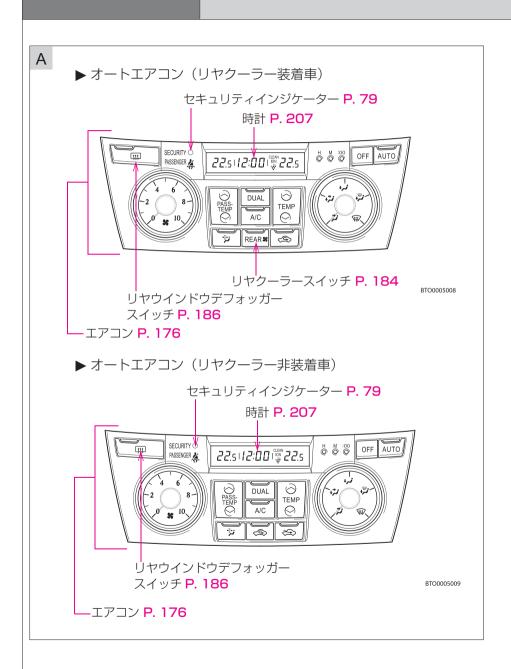
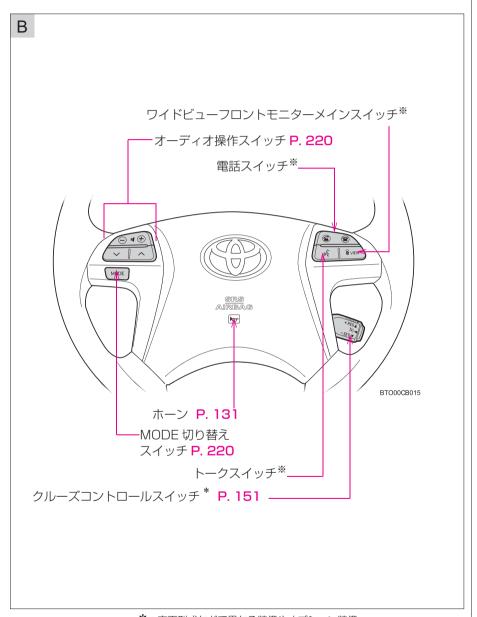
B
パワーウインドウ
スイッチ P. 72
ドアロックスイッチ P. 39
ALL AUTO
BTO0005005
ウインドウロックスイッチ P. 72

C

カップホルダー P. 198
コンソールボックス P. 197
コンソールトレイ P. 203
アクセサリーソケット P. 208

BTO0005006

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A
▶ オートエアコン（リヤクーラー装着車）
セキュリティインジケーター P. 79
時計 P. 207
リヤクーラースイッチ P. 184
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ P. 186
エアコン P. 176
BTO0005008
▶ オートエアコン（リヤクーラー非装着車）
セキュリティインジケーター P. 79
時計 P. 207
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ P. 186
エアコン P. 176
BTO0005009

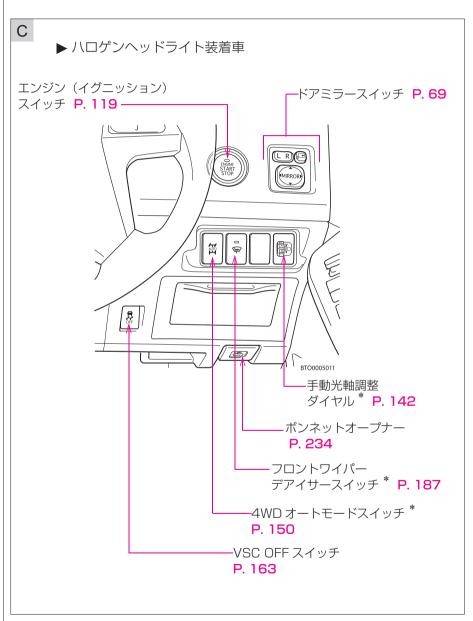
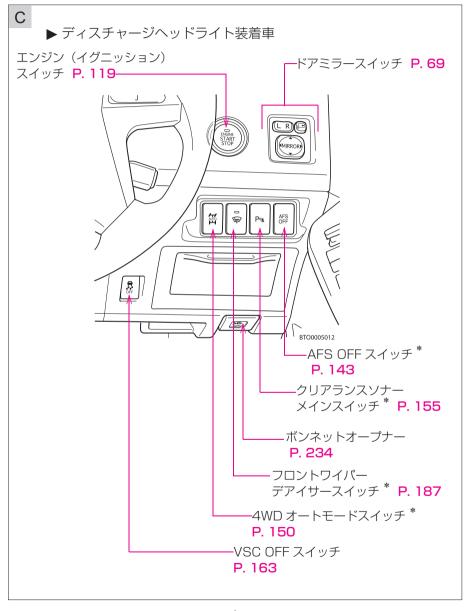
B

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

C

▶ ハロゲンヘッドライト装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

C

▶ ディスチャージヘッドライト装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけかたなどをまとめた「チャイルドシートの取りつけ」（→P. 100）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

キー

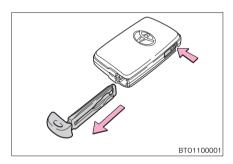
お客様へ以下のキーをお渡しします。

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 24）
- プッシュボタンスタートの作動（→P. 33）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 38）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 305）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 304）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

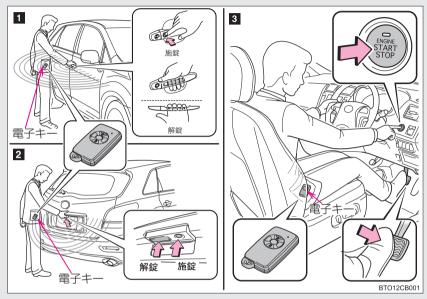
注意

■キーの故障を防ぐために

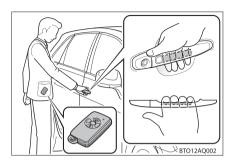
●キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。

●キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼りつけたりしないでください。

スマートエントリー&スタートシステム＊

電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの解錠・施錠　（→P. 25）
2 バックドアの解錠・施錠　（→P. 26）
3 エンジンの始動　（→P. 119）

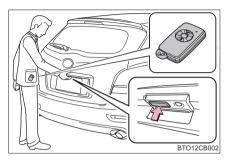
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

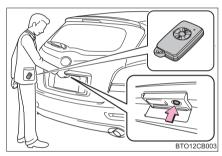
ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

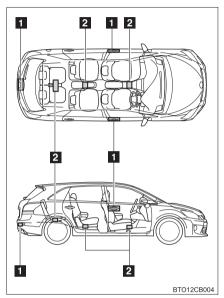
ロックスイッチを押して施錠する

バックドアの解錠・施錠

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

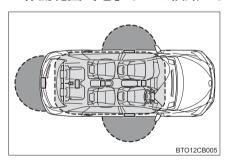
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

BTO12CB004

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

BTO12CB005

(濃い灰色の円): ドアの解錠・施錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

(薄い灰色の円): エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

- ●2 週間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった
- ●車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

- ●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ●ワイヤレス機能で解錠・施錠する（→P. 38）
- ●メカニカルキーで解錠・施錠する（→P. 305）

■電池の消耗について

- ●電池の標準的な寿命は１〜２年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します。）スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 260）
- ●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 289）
- ●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
  - ・ＴＶ
  - ・パソコン
  - ・充電中の携帯電話やコードレス電話機
  - ・電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 283)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■**スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは**

● ドアの解錠・施錠：→P. 305

● エンジン始動：→P. 305

■**電池が切れたときは**

→P. 260

■**販売店で設定可能な機能**

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 326）

⚠警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 27）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

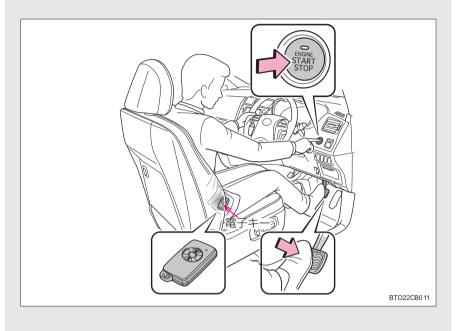
⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

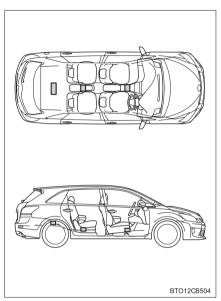
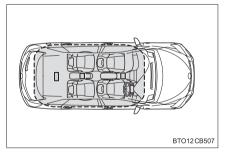
スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 305）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
  - ・ほかの車の電子キー
  - ・電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

プッシュボタンスタート*

電子キーをポケットなどに携帯するだけでエンジンの始動（→P. 119）が行えます。（必ず運転者が携帯してください。）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

■ 作動範囲（キーの検知エリア）

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではプッシュボタンスタートを停止します。

- 2 週間以上プッシュボタンスタートを使用しなかった
- 車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、プッシュボタンスタートが復帰します。

- ワイヤレス機能で解錠・施錠する（→P. 38）
- メカニカルキーで解錠・施錠する（→P. 305）

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します。）プッシュボタンスタートやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 260）
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 289）
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
  - ・ＴＶ
  - ・パソコン
  - ・充電中の携帯電話やコードレス電話機
  - ・電気スタンド

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
  - ・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 283)

■プッシュボタンスタートが正常に作動しないときは

→P. 305

■電池が切れたときは

→P. 260

■販売店で設定可能な機能

プッシュボタンスタートを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧 →P. 326)

⚠警告

■電波がおよぼす影響についての警告

● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、アンテナ(→P. 34)から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

プッシュボタンスタートを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

プッシュボタンスタートは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、プッシュボタンスタートが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 305）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●複数の電子キーが近くにあるとき

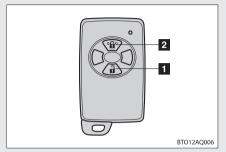
●電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ほかの車の電子キー

・電波式ワイヤレスリモコン

・パソコン

ワイヤレスリモコン

ドアを解錠・施錠できます。

1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

→P. 28

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 30

■電池が切れたときは

→P. 260

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 32

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 326）

ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

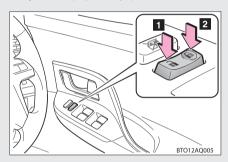
→P. 25

■ ワイヤレス機能

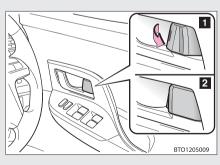
→P. 38

■ キー

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。(→P. 305)

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

■ ロックレバー

1 解錠

2 施錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するときは

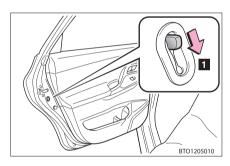
手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

・ 助手席ドアを施錠するときは、ロックレバーを施錠側にし、ドアハンドルを引かずにドアを閉めます。

チャイルドプロテクター

1 施錠側にすると、リヤドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からリヤドアを開けないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

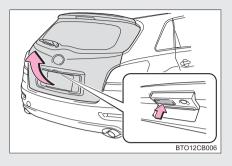
■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- 全てのドアを施錠する
- 全てのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをセカンドシート、サードシート＊に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

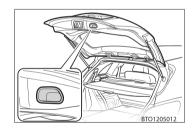
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

バックドア

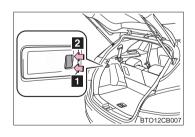
BTO12CB006

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

知識

■バックドアを閉めるときは

BTO1205012

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

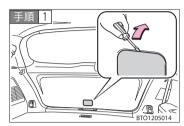
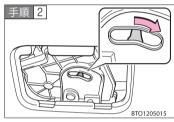
■ラゲージルームライト

BTO12CB007

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

1 ON

2 OFF

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

カバーをはずす。

レバーを矢印の方向に押す。

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたままにしておくと、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

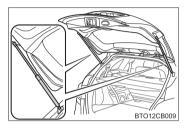
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

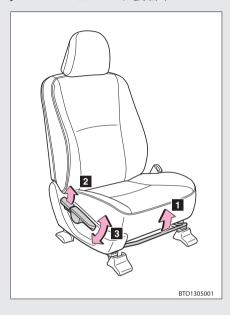
- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないように十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や指を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

▶ マニュアルシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ パワーシート装着車

BTO1305002

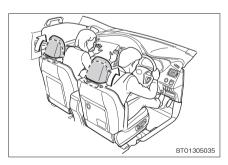
1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）

4 シート全体の上下調整（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト

BTO1305035

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

知識

■アクティブヘッドレストについて

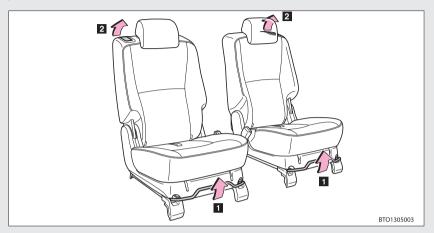
背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

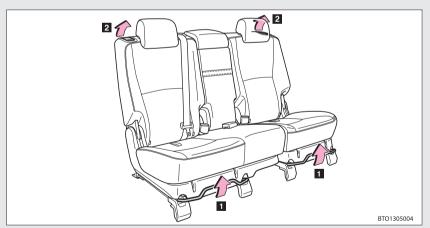
警告

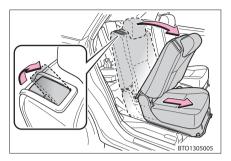
■シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

セカンドシート

▶ 6 人乗り車

1 前後位置調整
2 リクライニング調整

▶ 5人乗り車・7 人乗り車

1 前後位置調整
2 リクライニング調整

サードシートへの乗り降り（５人乗り車を除く）

リクライニングレバーを引く

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

警告

■リクライニング調整について

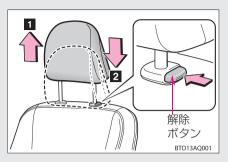
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■サードシートへの乗り降りについて

サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

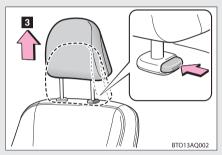
注意

■サードシートへの乗り降りについて

可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

ヘッドレスト

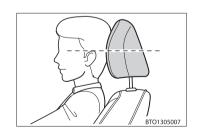
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

3 取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳の一番上の辺りになるよう調整してください。

■セカンドシート、サードシート * のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から上げた位置にしてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページを読んでから行ってください。

■ シートの格納

● サードシート * の格納のしかた（→P. 55）

BTO1305008

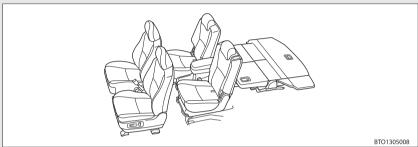
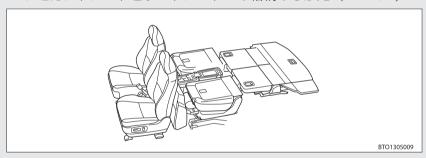
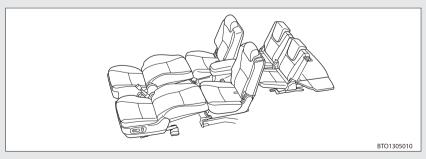
● セカンドシートとサードシート * の格納のしかた（→P. 57）

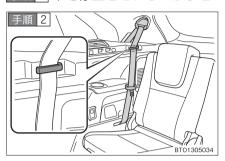
BTO1305009

■ フラットシート

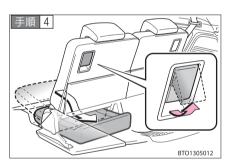
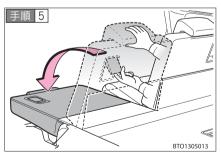
→P. 59

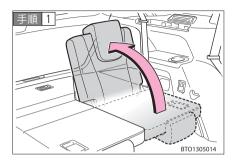
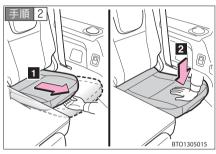
BTO1305010

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

サードシートの格納のしかた（５人乗り車を除く）

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

サードシート左右席シートベルトをシートベルトクリップに挟む。

手順 3 サードシートのヘッドレストを一番下まで下げる。（→P. 52）

ヘッドレストを一番下まで下げないと、シートを格納して使用しているときに、ヘッドレストが汚れる場合があります。

サードシート背もたれのうしろ側にあるレバーを引き、シートクッションを格納する。

シートクッションが格納されたあと、レバーを引きながら背もたれを前方に倒す。

■ サードシートをもとにもどすときは

背もたれを起こし、固定する。

シートクッションを固定する。

1 シートクッションを前方に引き出します。

2 シートクッション前側を押さえ、シートを固定します。

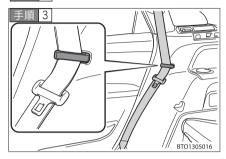
知識

■サードシートを格納するときは

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

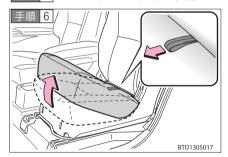
セカンドシートとサードシート * の格納のしかた

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシートを格納する。(→P. 55)

セカンドシート左右席シートベルトをシートベルトクリップに挟む。

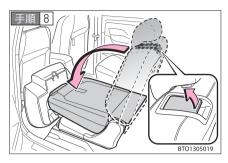
手順 4 セカンドシートのヘッドレストを FF 車（前輪駆動車）は一番下まで下げる。4WD 車（4 輪駆動車）はヘッドレストを取りはずす。(→P. 52)

ヘッドレストを一番下まで下げる、またははずさないとシートを格納して使用しているときに、ヘッドレストが汚れる場合があります。

手順 5 セカンドシートを一番うしろに移動させる。(→P. 50)

シートクッション後端のシートロック解除ベルトを前方へ引く。

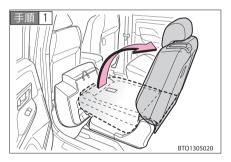
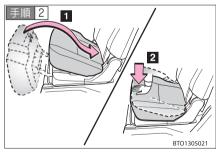
シートクッションのロックを解除し、クッションの前端を上げます。

シートクッションを前方に引き起こす。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

背もたれを前方に倒す。

リクライニングレバーを前方に引き、背もたれを前方に倒します。

手順 9 6 人乗り車はセカンドシートコンソールボックスのフタを開く(→P. 197)

■ セカンドシートをもとにもどすときは

背もたれを起こし、固定する。

シートクッションを固定する。

1 シートクッション後部を背もたれの下端に差し込みます。

2 シートクッション前側を押さえ、シートを固定します。

シートベルト、バックルがシートクッションの下に挟み込まれないようにしてください。
シートクッションの後部を持ち上げ、確実に固定されていることを確認してください。

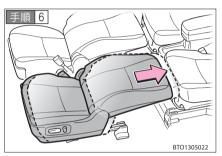
フラットシートのしかた

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 セカンドシートを一番うしろまで移動させる。(→P. 50)

手順 3 フロントシートのヘッドレストをはずす。(→P. 52)

手順 4 フロントシートを一番前まで移動させる。(→P. 47)

手順 5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 47)

セカンドシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させる。(→P. 47)

⚠ 警告

■ **シートアレンジについて**

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

警告

■シートの格納について

- セカンドシートを格納した状態で、サードシート * に人を乗せて走行しないでください。
- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。
- サードシート * を格納したあとで、背もたれのみを引き起こして座らないでください。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

注意

■シートアレンジについて

- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■シートの格納について

- シートを格納するときは、格納部に物がないことを確認してから行ってください。
- シートベルトのバックルをバンドからはずさないでください。(5 人乗り・7 人乗り車)
- シートクッションを前方へ引き起こしたときは、シートクッションの土台部分に乗らないでください。

■フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。(フロントマニュアルシート)
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルト

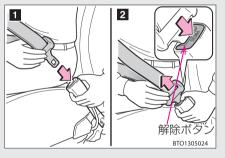
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

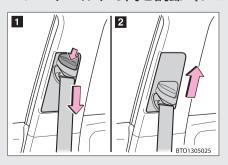
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

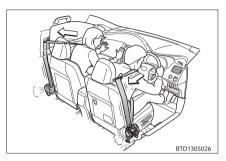
解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

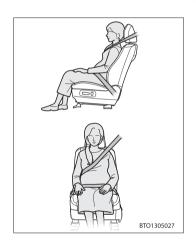
BTO1305026

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 61）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 90)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 61)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはセカンドシート、またはサードシート * に座らせてシートベルトを着用させる
- ●シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

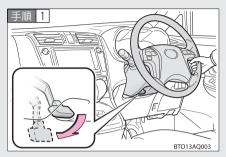
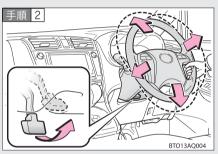
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる。

レバーを下げたまま、ハンドルを前後上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げ、ハンドルを固定してください。

⚠ 警告

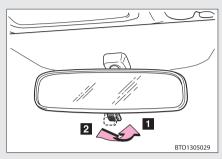
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

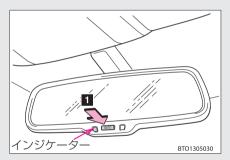
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インナーミラー

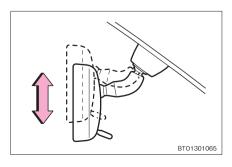
後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。（手動防眩タイプ装着車）

1 通常使用状態

2 防眩状態

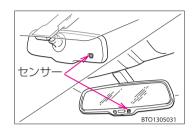
自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。（自動防眩タイプ装着車）

1 自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。
（手動防眩タイプ装着車）

知識

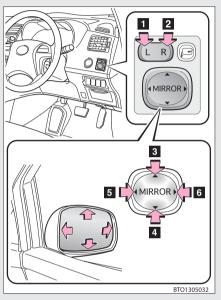
■センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

⚠ 警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ

1 L：左

2 R：右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

3 上

4 下

5 左

6 右

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 186）

■レインクリアリングミラー*

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

- 次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 223）を行ってください。
  - ・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり清潔でない布でふいたとき
  - ・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
  - ・地下、屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき
- 次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。
  - ・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
  - ・鏡面に傷を付けたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

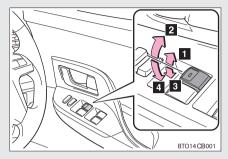
注意

■レインクリアリングミラーの取り扱いについて*

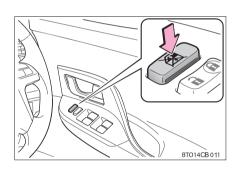
- ●ミラーが凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
  親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- ●シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- ●砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。また、故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続ける（約 10 秒以上）と閉めることができます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

● 車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

● 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことをお守りください。

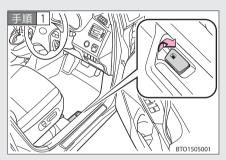
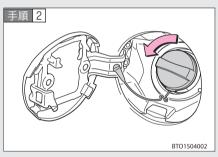
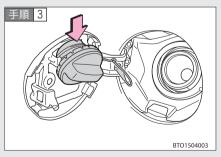
- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

給油口の開け方

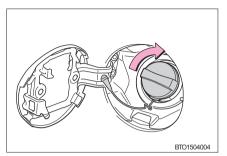
以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける

キャップをゆっくり回して開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

BTO1504004

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

2AZ-FE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

■燃料タンク容量

約 60 L

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近づけない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- ●給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
  正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●ノッキングが発生する

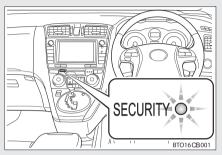
●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮ モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

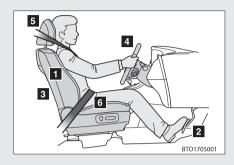
- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 47）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 47）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 66）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 52）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 61）

⚠警告

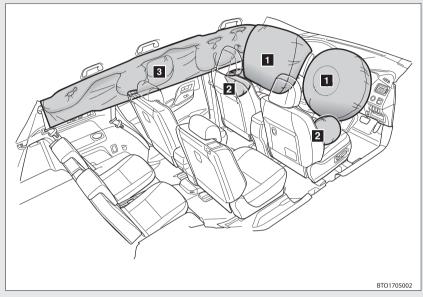
■走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあり危険です。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
  指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とセカンドシート、サードシート * 外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウィンドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

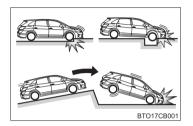
●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

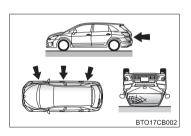
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 k m/ h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

知識

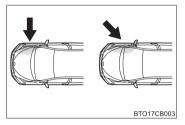
■衝突以外で作動するとき

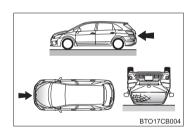
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

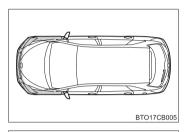
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

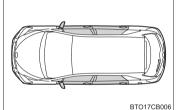
SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

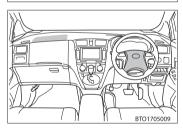
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

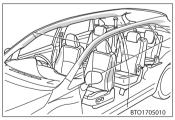
以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17CB005

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17CB006

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO1705009

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボードが傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO1705010

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

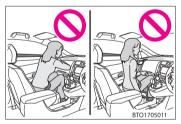
警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→P. 100)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

■SRS エアバッグについて

BTO1705013

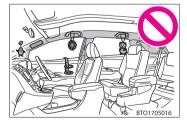
●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

BTO1705014

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

BTO1705015

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取りつけたり、置いたりしない。

BTO1705016

●ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取りつけない。

⚠警告

■SRS エアバッグについて

- ●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- ●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- ●SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- ●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取りつけ・分解・修理
- ●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- ●フロントフェンダー、フロントバンパー、車内側面部の修理、改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取りつけ
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取りつけ

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属する取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0^{+}　：13kgまで
グループⅠ　：9 ～ 18kg
グループⅡ　：15 ～ 25kg
グループⅢ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰ に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

質量グループ	着席位置（または他の場所）				
	フロントシート	セカンドシート			サードシート（5人乗り車を除く）
		6人乗り車	5人乗り車・7人乗り車		
	助手席	左右席	左右席	中央席	左右席
0（10kgまで）	×	U	L	U	L※
0^{+}（13kgまで）	×	U	L	U	L※
Ⅰ（9～18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	L	U	L※
Ⅱ（15～25kg）	UF	U	L※	U	L※
Ⅲ（22～36kg）	UF	U	L※	U	L※

● 上表に記入する文字の説明

※：子供専用シートを取りつける際は、ヘッドレストをはずしてください。

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取りつけることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト

▶ セカンドシート

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0 （10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ （15 ～ 25kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ （22 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

▶ サードシート（5人乗り車を除く）

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ （15 ～ 25kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ （22 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、又は「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 92）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 92）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

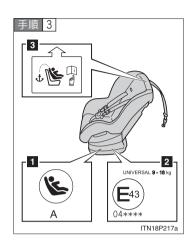
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

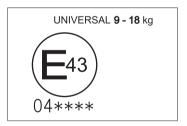
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 95）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 100）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート（B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

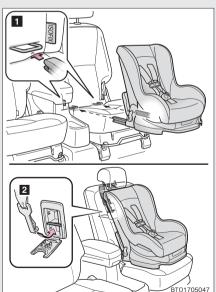
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、荷室内に収納し、しっかり固定しておいてください。

チャイルドシートの取りつけ

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシート＊に取りつけてください。
取りつけ方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

BTO1705017

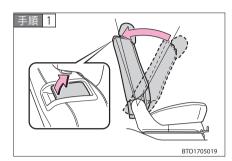
シートベルトによる取りつけ（セカンドシートベルト）

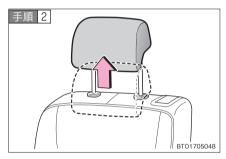
BTO1705047

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー

セカンドシートの外側の座席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。）

2 トップテザーアンカー

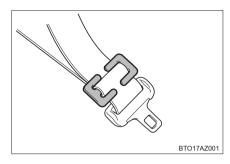
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートの外側の座席に装備されています。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルトで固定する

リクライニングレバーを引きながら、背もたれを一度前方に倒す。背もたれを立てて１段目の固定位置で固定する。

ヘッドレストを一番上まで上げる。

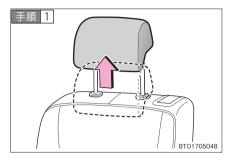
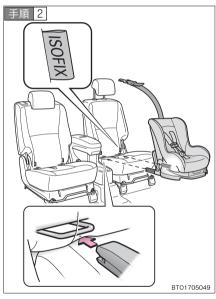
チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

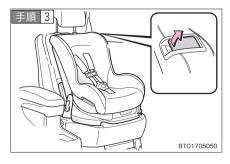
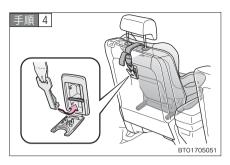
BTO17AZ001

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取りつけ後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストを一番上まで上げる。

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取りつける。

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

チャイルドシートの取りつけ金具をチャイルドシート固定専用バーに取りつけます。
取りつけ方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書にしたがってください。

リクライニングレバーを引き、背もたれの角度を調整する。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取りつけたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認する。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取りつけてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取りつけるときは

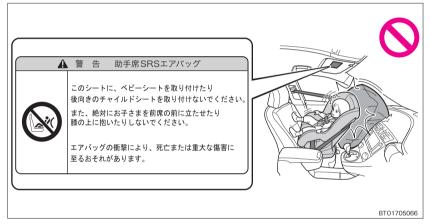
●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。

警告

■チャイルドシートを取りつけるときは

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取りつけられない場合は、助手席側のセカンドシートに取りつけてください。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■**チャイルドシートを取りつけるときは**

BTO1705033

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取りつける場合には、助手席シートを一番うしろに下げて取りつけてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 110）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 123）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 130）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 123）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 130）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 123）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてエンジンを止める。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

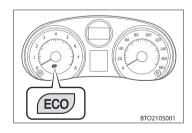
ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→P. 167)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取りつけ

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取りつけることはできません。

■環境に配慮した運転をするには

エコドライブインジケーターが点灯するとCO_2（二酸化炭素）排出量の少ない運転をしていることをお知らせします。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。（D で走行時）

⚠ 警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをＰに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

■運転するときは

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 315を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 125)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

警告

■**すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

警告

■駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・スプレー缶からガスが漏れたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
  エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡にいたるおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。直ちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD オートモード作動時）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■**運転中は**

● 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

● 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■**駐車するときは**

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■**部品の損傷を防ぐために**

● パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

● ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■**継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

● ハンドルがとられる

● 異常な振動がある

● 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。(→P. 291)

⚠注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

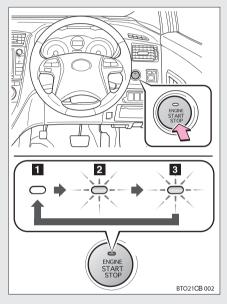
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切り替えることができます。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります。）

1 OFF

シフトレバーが P 以外のときはOFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

全ての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。

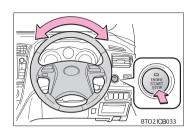
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 79)

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。

知識

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 20 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 28

■電子キーの電池の消耗について（プッシュボタンスタート装着車）

→P. 35

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 260

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 32

■プッシュボタンスタートが正常に働かないおそれのある状況（プッシュボタンスタート装着車）

→P. 37

■ご留意いただきたいこと（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 29

■ご留意いただきたいこと（プッシュボタンスタート装着車）

→P. 35

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

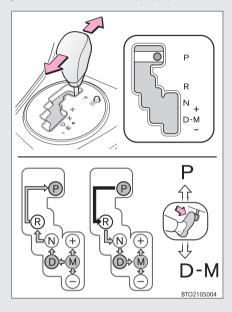
■エンジンを始動するとき

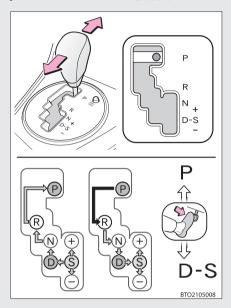
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、直ちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

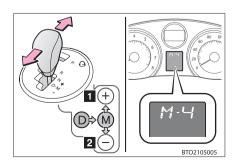
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2AZ-FE エンジン搭載車	2GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※ 1	
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→P. 125)	
S		S モード走行※ 2 (→P. 126)

※ 1　D ポジションを使用することで、その時の走行状況に最適な変速比・ギヤ段が自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

※ 2　S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えた走行ができます。

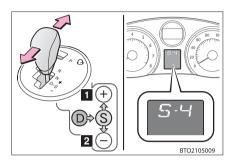
7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでのシフト切り替え

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーを操作します。
(2AZ-FE エンジン搭載車)

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 〜 7 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーを操作します。
(2GR-FE エンジン搭載車)

1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 レンジずつ変わります。
シフトレバーをシフトレンジアップ側へ保持すると 6 レンジに設定されます。
1 ～ 6 の間で選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 5 レンジもしくは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれにしたがい、初期のシフトレンジが 3 レンジになる場合があります。(→P. 128)

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について（2AZ-FE エンジン搭載車）

●エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。

●エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■S モードに関する自動変速について（2GR-FE エンジン搭載車）

●エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に1レンジずつシフトレンジアップされます。

●5レンジ以下のとき、シフトレバーを“＋ ”側へ保持すると、6レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード、または S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 303

■クルーズコントロールを使って走行しているとき（クルーズコントロール装着車）

S モード走行時に 5 または 4 へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。

■シフトレバーを M、または S にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示部に M、または S が表示されないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■M ポジションで走行中に停車したときは（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停止後走行するときは M1 からの発進となります。

●停止後は M1 に固定されます。

■NAVI・AI-SHIFT について

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■AI-SHIFT について

●AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適な変速比・ギヤ段切り替えを行います。

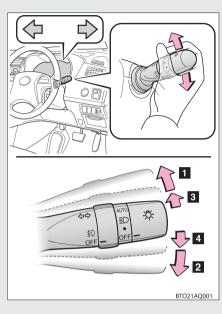
●AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。シフトレバーを M（2AZ-FE エンジン搭載車）、または S（2GR-FE エンジン搭載車）にすると、機能が解除されます。

●車両が下り坂を走行していると判断したときは、自動的にシフトダウンしエンジンブレーキがかかることがあるため、エンジン回転数が上昇することがあります。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

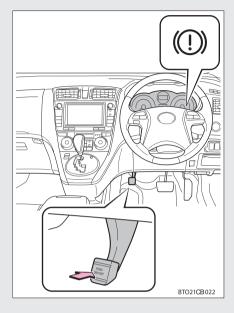
知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキがかかる※
（再度踏み込むと解除される）

※右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 171）の記載を参照してください。

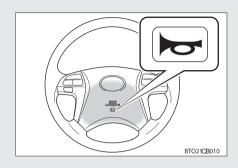
■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 287

警告

■走行前の注意

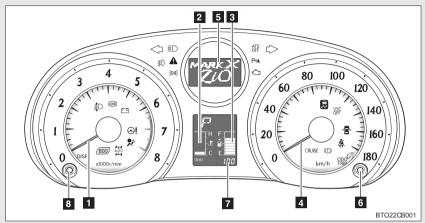
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドルの位置を調整した後は

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 66）

計器類

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにすると、スピードメーターとタコメーターの針が動き、メーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 138

6 表示切り替えボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切り替えができます。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離が 0 にもどります。

7 オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

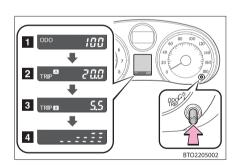
● メーター照度調整表示

メーター照度の明るさを調整できます。

8 DISP ボタン

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。

表示切り替えボタン

ボタンを押すごとに以下のように切り替わります。

1 オドメーター

2 トリップメーター A※1

3 トリップメーター B※1

4 メーター照度調整表示※2

※ 1 長押しで 0 にもどります。

※ 2 長押しで照度を調整できます。

知識

■燃料計について

燃料残量が約 9L 以下になると、一番下の燃料残量表示部が点滅します。

■メーター照度の調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれ 5 段階に明るさのレベルを調整することができます。

■減光について

周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明などが減光されます。
周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メータ照明などは減光されません。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示がHの位置で点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 311）

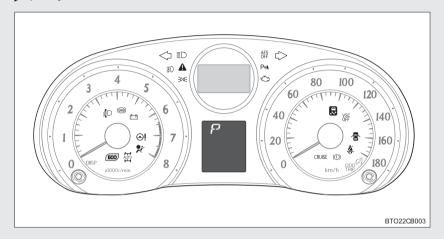
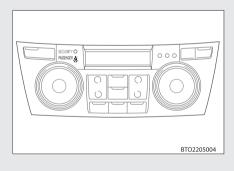
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

BTO22CB003

▶ センターパネル

BTO2205004

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 129）

尾灯表示灯（→P. 141）

クリアランスソナー表示灯（→P. 155）

※

AFS OFF 表示灯（→P. 143）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 141）

※

エコドライブインジケーター（→P. 111）

※

4WD オートモード表示灯*（→P. 150）

※

スリップ表示灯（→P. 163）

※

VSC OFF 表示灯（→P. 164）

クルーズコントロール表示灯*（→P. 151）

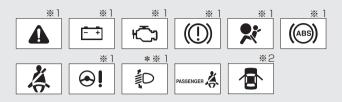
フロントフォグライト表示灯（→P. 145）

シフトポジション・シフトレンジ表示（→P. 123）

※作動確認のために " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのとき、または点滅する場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 279)

※1 作動確認のために " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 " エンジン スタート ストップ " スイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に半ドア警告表示が表示されます。(→P. 287)

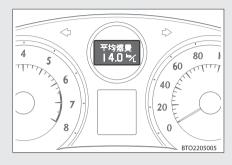
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、" エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

● 外気温表示（→P. 140）

外気温を表示します。

● トリップインフォメーション（→P. 139）

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

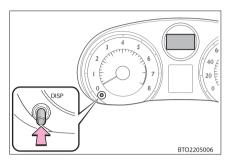
● クリアランスソナー表示*（→P. 155）

クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。

● 警告メッセージ（→P. 283）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示切り替え

表示を切り替えるには、DISP ボタンを押します。

● 航続可能距離

航続可能距離
370 km

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

● 外気温

外気温
25℃

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

知識

■システムチェック表示

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため以下の表示になります。チェックが終わると通常の画面表示にもどります。

・ イニシャルチェック ＶＳＣ（FF ＜前輪駆動＞）
・ イニシャルチェック ＶＳＣ 4WD（4WD ＜ 4 輪駆動＞）

■外気温表示について

外気温の測定が正しく行われないときは「－－℃」と表示されます。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、以下のデータはリセットされます。

・ 平均燃費
・ 航続可能距離
・ 平均車速

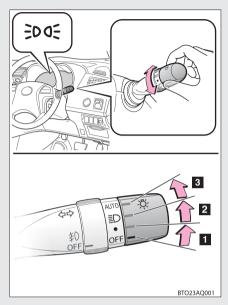
■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

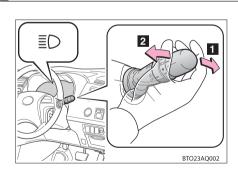
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・薄暮灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

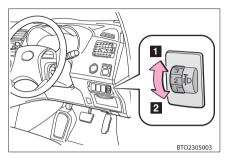
ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転者と助手席、およびサードシート＊に２名乗車	なし	1
全乗員	なし	1.5（5人乗り車を除く）
		1（5人乗り車）
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	2.5

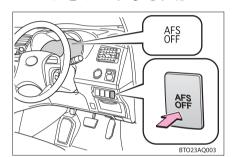
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）＊

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

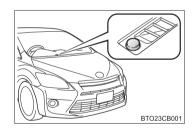
■ AFS を OFF にするには

BTO23AQ003

スイッチを押して OFF にする

メーター内のAFS OFF表示灯が点灯します。

知識

■ライトセンサー

BTO23CB001

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。
再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ライト消し忘れ警告ブザー

ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF のときに働きます。
- ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■販売店で設定可能な機能

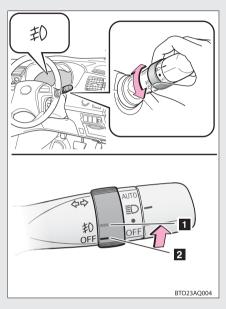
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 326）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フロントフォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

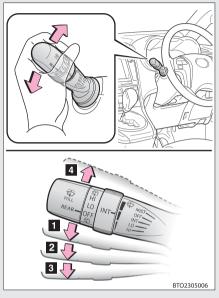
知識

■点灯条件

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

INTを選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

BTO2305006

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI））
4 一時作動（MIST）

BTO2304012

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）
7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

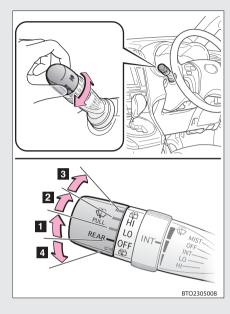
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

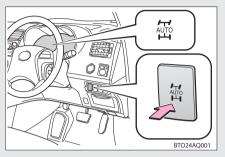
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモードスイッチ*

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じてＦＦ（前輪駆動）走行と４ＷＤ（４輪駆動）走行を自動的に切り替えます。

BTO24AQ001

４ＷＤ オートモードを使用する。

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

再度押すと解除されます。

知識

■4WD オートモード表示灯について

●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。
表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま以下の対応を行ってください。

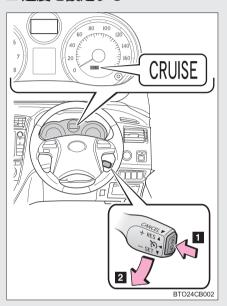
・表示灯が消灯するまで車速を落とす。
・表示灯が消灯するまで停車する。（エンジンは停止しない）

●4WDシステムに異常が発生したときには、4WDオートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

クルーズコントロール ＊

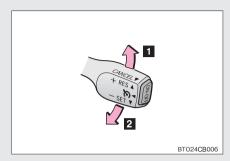
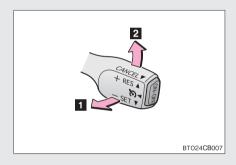
アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

■ 速度を設定する

1 ON-OFFスイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

システムを OFF にするには再び ON-OFF スイッチを押します。OFF にするとメーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。

2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度をかえる

1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約1.5km/h ずつ）できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

知識

■設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4、5、6 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 40km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

走行条件によって次のようなとき自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以下に低下したとき
- 速度が約 40km/h 以下になったとき
- 車が横すべりして S-VSC が働いたとき

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

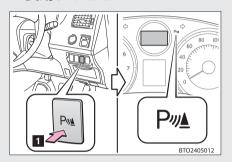
■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂
- ●車両けん引時

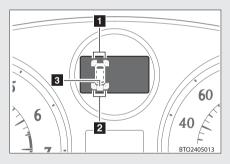
クリアランスソナー＊

低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両前後のソナーで測定した障害物とお車の距離を、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの表示、ブザー音でお知らせする補助装置です。

■ 使用するときは

1 オン／オフ

クリアランスソナー表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

再度押すと解除されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

1 フロントコーナーソナー表示

2 リヤコーナーソナー表示

3 バックソナー表示

知識

■ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では

マルチインフォメーションディスプレイの表示とブザー音だけではなく、モニター画面の表示と音声案内により、お知らせします。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■作動条件

●フロントコーナーソナー

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーソナー、バックソナー

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示とブザー音

クリアランスソナーが作動したとき、障害物とおおよその距離をマルチインフォメーションディスプレイに表示するとともにブザー音でお知らせします。

■ フロントコーナーソナー

障害物までの距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ブザー音
約 50 ～ 37.5cm		ピッピッピッ（断続音）
約 37.5 ～ 25cm		ピピピピ（速い断続音）
約 25cm 以下		ピー（連続音）

■ リヤコーナーソナー

障害物までの距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ブザー音
約 50 ～ 37.5cm		ピッピッピッ（断続音）
約 37.5 ～ 25cm		ピピピピ（速い断続音）
約 25cm 以下		ピー（連続音）

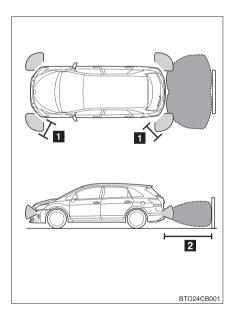
■ バックソナー

障害物までの距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ブザー音
約 150 ～ 60cm		ピッピッピッ（断続音）
約 60 ～ 45cm		ピピピピ（速い断続音）
約 45 ～ 35cm		ピピピピ（より速い断続音）
約 35cm 以下		ピー（連続音）

障害物を複数個所で同時に感知したとき

障害物を複数個所で同時に感知したときは、以下のようにブザー音が変わります。

- 車両前方、または後方で障害物を約 25cm 以内に感知している状態（ブザー連続音作動中）で、もう一方の部位で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピ ピー」を繰り返します。
- 車両前方、または後方で障害物を約 25cm 以内に感知している状態（ブザー連続音作動中）で、もう一方の部位も約 25cm 以内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピ ピー」を繰り返します。

障害物を感知する範囲

1 約 50cm（約 0.5m）

2 約 150cm（約 1.5m）

センサーが感知できる範囲は左図の範囲のみです。障害物がセンサーに近づきすぎると感知できません。

知識

■クリアランスソナーの異常表示・警報

障害物を感知していないときに、ソナーの異常が発生した場合は、マルチインフォメーションディスプレイやモニター画面*に表示と同時に異常を知らせるブザーが約 7 秒間鳴ります。(→P. 286)

●異常を知らせる表示が出ていても、以下のときは表示されなくなります。

・マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えた
・クリアランスソナーをオフにした
・モニター画面を切り替えた（ナビゲーションシステム装着車）

■販売店で設定可能な機能

クリアランスソナーのブザー音量や、バックソナーの感知開始距離の変更ができます。(カスタマイズ一覧 →P. 326)

・ナビゲーションシステム装着車では、モニター画面で変更できます。
変更方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

警告

■使用時の注意

●ソナーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（とくに車両側面など）ソナー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分制御し、ゆっくり運転してください。

・ソナーの感知範囲は車両コーナー部と後部のバンパー周辺に限られます。
・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。
・障害物を感知してから、表示やブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが鳴る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。
・路面状況（雨、砂利など）により、制動距離が変化します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■使用時の注意

●ソナーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取りつけないでください。クリアランスソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●異常表示が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。氷、雪、泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

●以下のときクリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・ソナーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ソナー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
　とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
・センサーを手などでふさいだとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車につけたとき
・けん引フックを取りつけたとき
・背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
・標識などの物体によっては感知距離が短くなります
・バンパー真下付近は感知しません
　センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
・ソナーに障害物が近づきすぎたとき

警告

■正確に感知できないことがある障害物

以下のような物は感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金、フェンス、ロープなどの細いもの
- 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 背の低いもの

注意

■使用時の注意

●以下のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- スイッチをオンにしてもブザーが鳴らないとき
- 障害物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- ソナー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎスリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

すべりやすい路面などで各輪のブレーキとエンジン出力を制御し、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ S-VSC（Steering-assisted Vehicle Stability Control）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

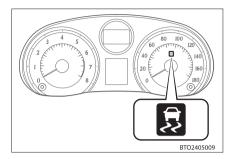
すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。
→P. 167

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

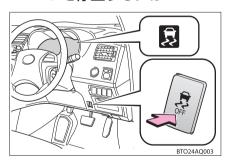
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

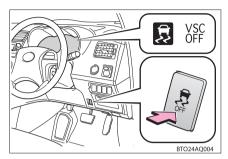
TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

BTO24AQ004

TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

スリップ表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにVSC-OFF表示が表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止したあと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、BA、VSC、TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン” という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。

⚠ 警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したらとくに慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 323）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

・シフトレバーが P 以外の位置のとき
・パーキングブレーキがかかっていないとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●マルチインフォメーションディスプレイに VSC システムチェックが表示されているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ 冷却水
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（→P. 323）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 前 2 輪に取りつける
・ タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・ 取りつけ後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

● トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● アルミホイール*にタイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

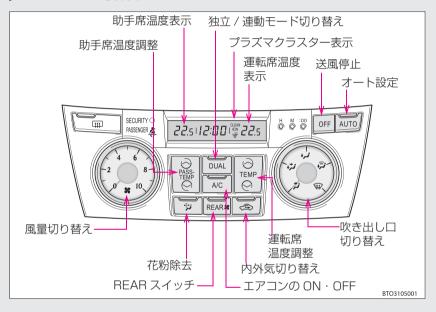
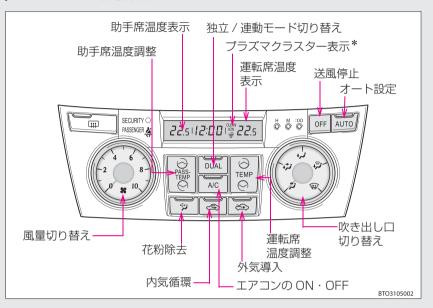
3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

フロントオートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにすると、風量切り替えダイヤルと吹き出し口切り替えダイヤルの針が動きます。

▶ リヤクーラー装着車

▶ リヤクーラー非装着車

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

手順 3 A/C を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1 AUTO を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 DUAL を押す

手順 3 運転席側は TEMP 、助手席側は PASS-TEMP を押し、温度を調整する

再び DUAL を押すと、連動モードになります。

手順 4 A/C を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

A/C を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は TEMP 、助手席側は PASS-TEMP を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の PASS-TEMP を押すと独立モードに切り替わります。

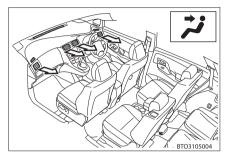
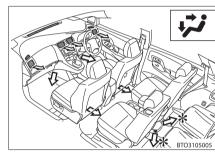
■ 風量をかえるには

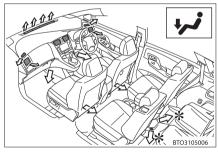
風量切り替えダイヤルを右（増）か 左（減）へ回す

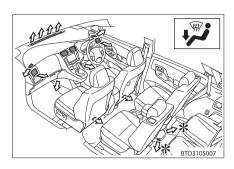
風量は 10 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押す、または風量切り替えダイヤルを左へ回し 0 にします。

■吹き出し口を切り替えるには

吹き出し口切り替えダイヤルを右か左へ回し、吹き出し口を選択する

上半身に送風

上半身と足元に送風

＊一部車種のみ

足元に送風

＊一部車種のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

＊一部車種のみ

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

▶ リヤクーラー装着車

を押す

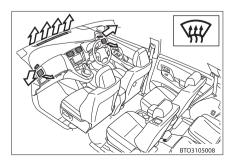
ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、の表示灯が点灯します。

▶ リヤクーラー非装着車

内気循環に切り替えるには を押す

外気導入に切り替えるには を押す

フロントガラスの曇りを取るには

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置まで回す

エアコンが作動します。

花粉除去機能を使うには

[ボタン] を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に（外気温が低いときは 約1分後に）[ボタン] を押す前のモードにもどります。

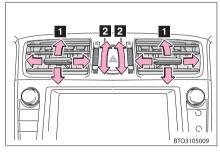
途中で動作を止めるときは再度 [ボタン] を押すと前のモードにもどります。

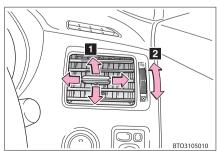
プラズマクラスター®を使うには*

風量切り替えダイヤルを回してファンを作動させる

ファンが作動すると、自動的にプラズマクラスターが作動します。
モードの切り替えは自動で行われます。プラズマクラスター® イオンのときはCLEAN、マイナスイオンモードのときはION の表示が表示されます。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

1 風向きの調整
2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整
2 吹き出し口の開閉

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

A/C を押してもエアコンは作動しません。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

●内気循環に切り替わらない

●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はエアコンフィルターで取り除かれています。

■プラズマクラスター® について

●運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスターについて

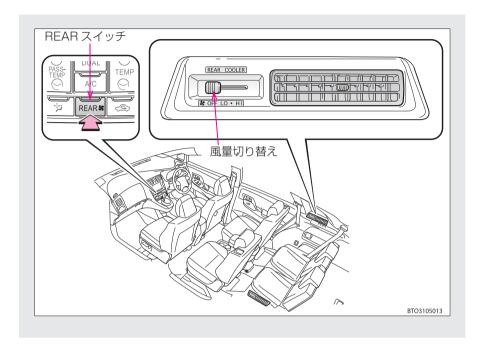
●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

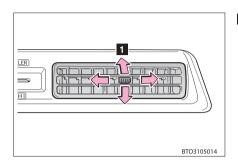
リヤクーラー（リヤクーラー装着車）

リヤクーラーを使うとき

手順 1 フロントオートエアコン操作部にある REAR を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON・OFF が切り替わります。リヤクーラーを ON にしていると作動表示灯が点灯します。

手順 2 風量切り替えツマミを右（増）か左（減）へ動かす

風量は 3 段階に調整できます。

風向きの調整

1 風向きの調整

知識

■リヤクーラーの作動条件について

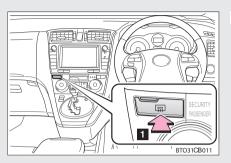
フロントオートエアコンが停止しているとき、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤクーラーを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

1 オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■ミラーヒーターについて

ミラーヒーター装着車は、リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

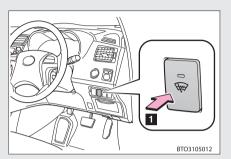
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー*

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

1 オン／オフ

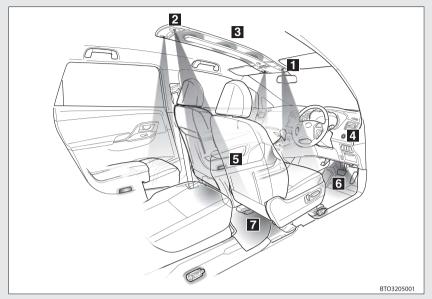
フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

⚠ 警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

1 フロントパーソナルライト（→P. 191）
2 リヤパーソナルライト*、ルームライト*（→P. 192）
3 天井大型イルミネーション*（→P. 193）
4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
5 ドアカーテシライト
6 フロント足元照明*
7 リヤ足元照明*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態で天井大型イルミネーションのドア連動が ON（天井大型イルミネーション装着車）、またはフロントパーソナルライト（天井大型イルミネーション非装着車）、ドームライトのスイッチが DOOR（ドア連動）のときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 327）

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知、ドアの施錠・開錠／開閉、“エンジン スタート ストップ”スイッチにより、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

● 下記の作動は、条件が 1 つしか成立しない場合の例です。実際には、いくつかの条件が同時に成立することにより、下記の作動と異なる場合があります。

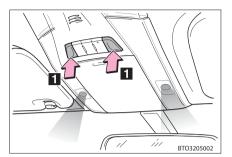
条件	パーソナルライト（フロント / リヤ*）、ルームライト*	イルミネーションライト*
電子キーを携帯して検知エリア内に入ったとき	消灯 → 約 15 秒間点灯	消灯したまま
ドアロックを開錠したとき	消灯 → 約 15 秒間点灯	消灯 → 約 15 秒間点灯（高輝度）
ドアロックを施錠したとき	点灯 → 消灯 消灯時は消灯したまま	点灯（高輝度）→ 消灯 消灯時は消灯したまま
いずれかのドアを開けたとき（バックドアを除く）	消灯 → 点灯	消灯 → 点灯（高輝度）
全てのドアを閉めたとき（バックドアを除く）	点灯 → 約 15 秒後に消灯	点灯（高輝度）→ 約 15 秒後に消灯

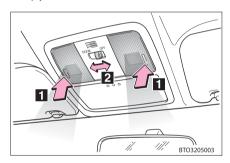
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

条件	パーソナルライト（フロント / リヤ*）、ルームライト*	イルミネーションライト*
“エンジン スタートストップ”スイッチをOFF からアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにした	点灯 → 消灯 消灯時は消灯したまま	消灯 → アクセサリーモード時は消灯したままイグニッション ON モード時は点灯（中輝度）
エンジン回転中	消灯したまま	点灯（中輝度）
“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードから OFF にした	消灯 → 約 15 秒間点灯	点灯（中輝度）→ 約 15 秒間点灯 （高輝度）
“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードからアクセサリーモードにした	消灯したまま	点灯（中輝度）→ 点灯（高輝度）
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき シフトレバーを P から P 以外にした	消灯したまま	点灯（中輝度）→ 消灯 車幅灯点灯時は 点灯（低輝度）
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき シフトレバーを P 以外から P にした	消灯したまま	消灯または点灯（低輝度）→ 点灯（中輝度）

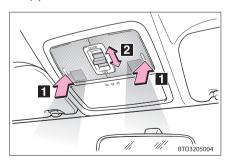
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルライト

▶ 天井大型イルミネーション装着車

1 点灯 / 消灯

▶ 天井大型イルミネーション非装着車（ナビゲーションシステム装着車）

1 点灯 / 消灯

2 ドア連動
DOOR（ドア連動）/OFF（消灯）

▶ 天井大型イルミネーション非装着車（ナビゲーションシステム非装着車）

1 点灯 / 消灯

2 ドア連動
DOOR（ドア連動）/OFF（消灯）

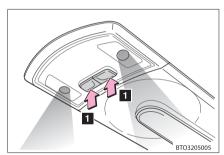
知識

■ フロントパーソナルライトについて

●天井大型イルミネーション装着車は、天井大型イルミネーションのドア連動が ON のとき、イルミネーテッドエントリーシステムによりフロントパーソナルライトが自動的に点灯、消灯します。

●天井大型イルミネーション非装着車は、フロントパーソナルライトのドア連動スイッチが DOOR（ドア連動）のとき、イルミネーテッドエントリーシステムによりフロントパーソナルライトが自動的に点灯、消灯します。

リヤパーソナルライト、ルームライト

▶ リヤパーソナルライト（イルミネーションライト装着車）

1 点灯 / 消灯

▶ ルームライト（イルミネーションライト非装着車）

1 DOOR（ドア連動）
2 OFF（消灯）
3 ON（点灯）

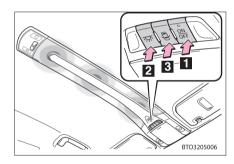
知識

■リヤパーソナルライトについて

天井大型イルミネーションのドア連動が ON のとき、イルミネーテッドエントリーシステムによりリヤパーソナルライトが自動的に点灯、消灯します。

■ルームライトについて

スイッチが DOOR（ドア連動）とき、イルミネーテッドエントリーシステムによりルームライトが自動的に点灯、消灯します。

天井大型イルミネーション*

1 全ライト（パーソナルライト、イルミネーションライト）ON（点灯）/OFF（消灯）

スイッチを押して、押し込まれた状態になると ON になります。

2 イルミネーションライト ON（高輝度点灯）/OFF（減光、または消灯）

3 ドア連動 ON/OFF

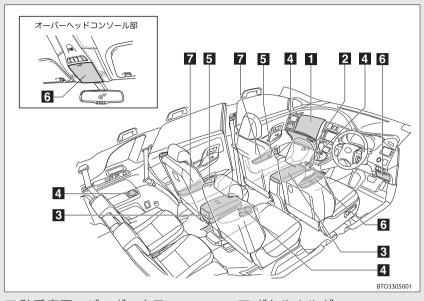
イルミネーションライトスイッチ、ドア連動スイッチを押して、押し込まれた状態になると ON になります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■イルミネーションライトについて

全ライトスイッチが OFF、イルミネーションライトスイッチが ON の状態で、ドア連動スイッチがONのときはイルミネーテッドエントリーシステムにより、イルミネーションライトの明るさが 3 段階に変化（高輝度・中輝度・低輝度）、または消灯します。
このとき、各スイッチの高さが均一になります。

収納装備一覧

1 助手席アッパーボックス
2 グローブボックス
3 コンソールボックス
4 カップホルダー
5 ボトルホルダー
6 小物入れ*
7 ドアポケット

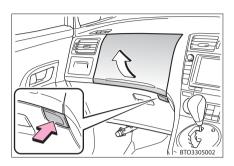
警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

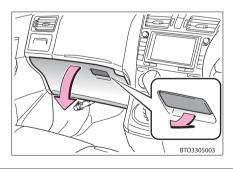
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席アッパーボックス

解除ボタンを押して開ける

警告

■走行中の警告

助手席アッパーボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いた助手席アッパーボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックス

レバーを引き開ける

知識

■グローブボックスライトについて

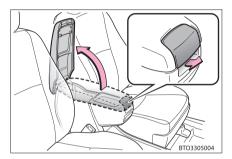
車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとライトが点灯します。

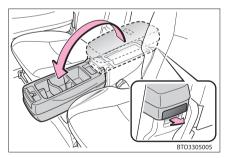
⚠ 警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

▶ フロントシートコンソールボックス

前方のレバーを引いてフタを持ち上げる

▶ セカンドシートコンソールボックス（6 人乗り車）

後方のレバーを引いてフタを持ち上げる

知識

■セカンドシートコンソールボックスについて

BTO3305006

中のトレイをはずすことができます。

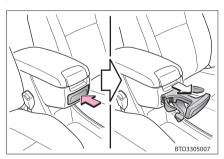
警告

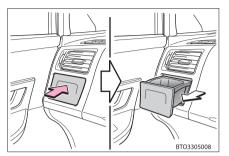
■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

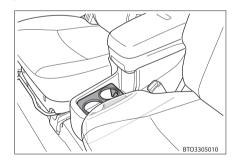
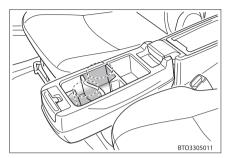
▶ フロント（フロントコンソールボックス部）

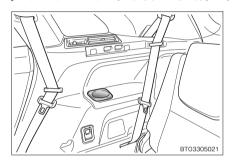
BTO3305007

カップホルダーを押して出す

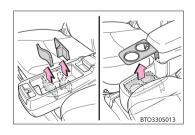
▶ フロント（助手席部）

カップホルダーを押して出す

▶ セカンドシート（5人乗り車・7 人乗り車）

リヤセンターアームレストを引き出し、フタを開ける

▶ セカンドシート（6 人乗り車、タイプ A）

▶ セカンドシート（6 人乗り車、タイプ B）

セカンドシートコンソールボックスのフタを開ける

▶ サードシート（5人乗り車を除く）/ ラゲージルーム（5人乗り車）

知識

■6 人乗り車のカップホルダーについて

ホルダー部をはずし、小物入れとして使用できます。

⚠ 警告

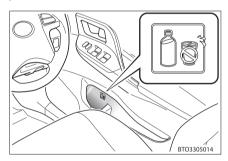
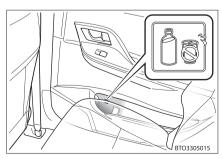
■**収納してはいけない物**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■**使わないときは**

カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

▶ フロントドア

▶ リヤドア

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

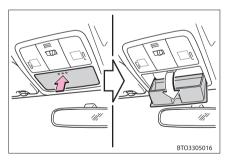
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

注意

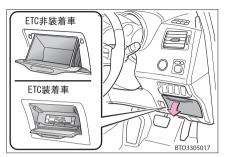
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

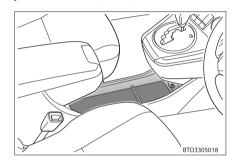
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール

押して開ける

車両型式により形状が異なります。

▶ 運転席アンダーボックス*

手前に引いて開ける

ETC 装着車は、ETC ユニットが装着されています。

▶ コンソールトレイ

警告

■走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

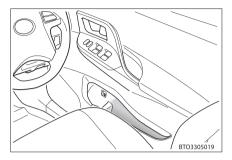
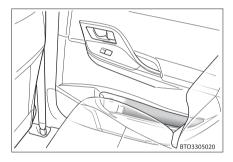
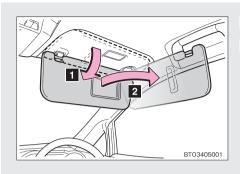
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアポケット

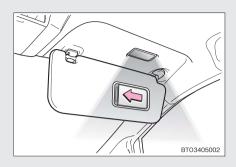
▶ フロントドア

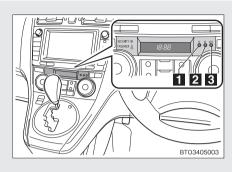
BTO3305019

▶ リヤドア

BTO3305020

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へ回す

バニティミラー

カバーを開けるとライトが点灯します。

時計

1 “ 時 ” を調整する（H）

2 “ 分 ” を調整する（M）

3 “ 分 ” を 00 にする※（:00）

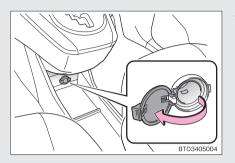
※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを手前に引いて開ける

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

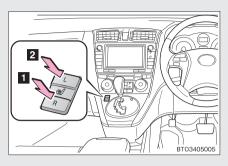
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター*

1 オン / オフ（運転席側）

2 オン / オフ（助手席側）

作動中はインジケーターが点灯します。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - ・皮膚の弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチをオフにしてください。

アームレスト

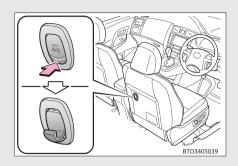
▶ 5 人乗り車・7 人乗り車セカンドシート

引き出して使用します。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

コンビニフック

フックを引き起こします

注意

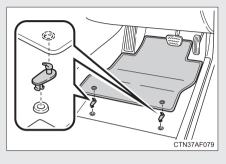
■破損を防ぐために

●フックを使用しないときは、格納しておいてください

●4kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

CTN37AF079

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

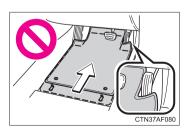
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

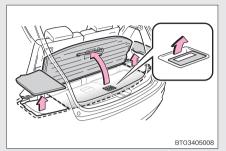
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

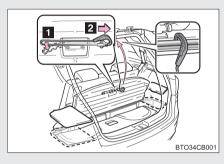
CTN37AF080

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ラゲージルーム内装備

■ デッキボード

BTO3405008

開けるときは取っ手を持って引き上げます。

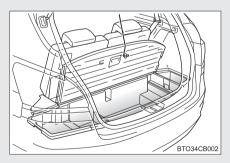
左右のデッキボードは、中央のデッキボードを開けたあと、はずすことができます。

BTO34CB001

中央デッキボード裏側の格納部から固定フックをはずし、ラゲージルームの外枠にかけることができます。(5人乗り車を除く)

1 ひもをはずす

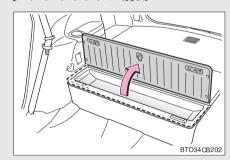
2 フックを固定部からはずす

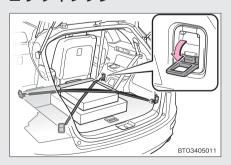
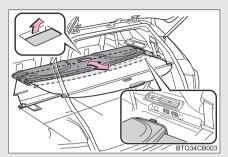
■ デッキアンダーボックス

BTO34CB002

■ デッキボックス（5人乗り車）

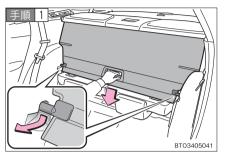
▶ デッキボックスうしろ側

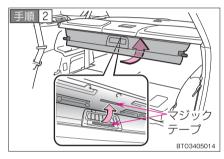
タグを持って引き上げます。

▶ デッキボックス前側

フタを持って引き上げます。

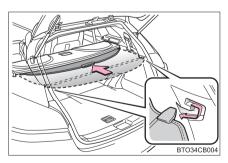
■ デッキフック

■ デュアルトノボード*

取っ手を引き、前後に動かすことができます

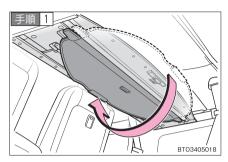
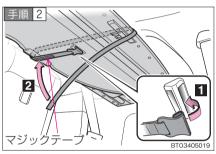
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

デュアルトノボード前カバーの格納

前カバー部を左右のホルダーからはずし、デュアルトノボードに格納する。

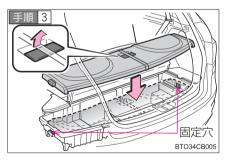
ホルダーからはずすと、前カバーは自動で巻き取られます。

格納した前カバーをデュアルトノボードに固定する。

マジックテープを密着させ、固定します。

デュアルトノボード後カバーの格納

後カバー部を左右のホルダーからはずし、デュアルトノボードに格納する

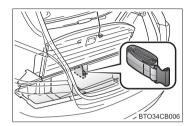
デュアルトノボードの格納

後カバー部を折りたたむ。

バンドを巻き、カバー を固定する。

1 後カバー固定用の穴にバンドのツメをかけ、巻きつけます。

2 バンドがたるまないように、マジックテープで固定します。

デュアルトノボードをデッキアンダーボックスに収納する。

デュアルトノボードの取っ手を引きながらラゲージボックスに収納し、ラゲージボックス左右の固定穴に固定します。

知識

■デュアルトノボード使用時は

バンドを図の位置に収納することができます。

警告

■デュアルトノボードについて

デュアルトノボードの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないでください。デュアルトノボードが破損し、荷物が破損したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■デッキフックについて

必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

■デュアルトノボードについて

●上に重いものを置かないでください。また、鋭利なもので刺したり、足で踏んだりしないでください。

●前カバーは防護カバーではありません。
強い衝撃をラゲージルーム側からカバーに加えるとデッキサイドトリムからはずれるようになっています。

●デュアルトノボード使用時は、サードシート＊を使用することはできません。

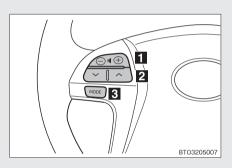
●硬いところへぶつけたり、裏返して床や地面に置かないでください。表面に傷がつくおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

- メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
- 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください

1 音量を調節する

2 CD、ラジオなどの操作

3 電源を入れる、モードを切り替える

電源を入れる

MODE を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより“ ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切り替える

電源が ON のとき MODE を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切り替わります。

音量を調節するには

 の＋または－を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラーがひっかかり、洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

■アルミホイール

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

ミラーの親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 70）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいな柔らかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

手順 4 きれいな柔らかい布などで鏡面についた水をふき取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の損傷をさけるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 61)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 82)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠注意

■清浄するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

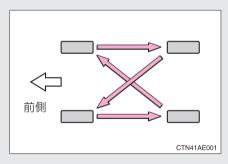
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

BTO41CB001

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ		空気圧※ [kPa(kg/cm^2)]
		前後輪
215/60R 16 95H	FF（前輪駆動車）	230（2.3）
	4WD（4輪駆動車）	220（2.2）
225/45R 18 91W		230（2.3）

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■日常点検について

●日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは以下の点について点検してください。

・タイヤの空気圧
・タイヤの亀裂・損傷の有無
・タイヤの溝の深さ
・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

■指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP. 323で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、応急用タイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

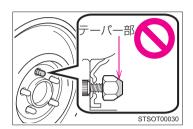
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

■異常があるタイヤの使用禁止

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因になることがあります。

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取りつけてください。テーパー部を外側にして取りつけると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■タイヤのサイズ、種類について

●タイヤはすべて指定サイズで、同一のサイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤ空気圧の点検は必ず行ってください。

・４輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき

警告

●タイヤの摩耗を４輪とも均等にし､寿命を延ばすためにタイヤのローテーションを行ってください（→P. 228）

●ディスクホイールを交換するときも指定以外のディスクホイールを装着しないでください。

●指定以外のタイヤおよび 4 輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ ABS &ブレーキアシスト
・ VSC
・ AFS *
・ ナビゲーションシステム*
・ TRC
・ クルーズコントロール*
・ バックガイドモニター*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・ 4WD システム*

■**冬用タイヤについて**

冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じサイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

■**摩耗限度について**

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■低偏平タイヤ（225/45R18 91W *）について

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

● 適切なタイヤ空気圧で使用してください。
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

● 段差や凹凸のある路面、路上に開いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■タイヤ空気圧が低いとき

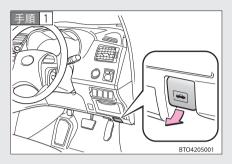
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

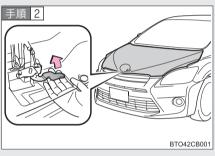
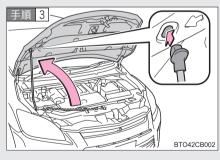
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に差し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

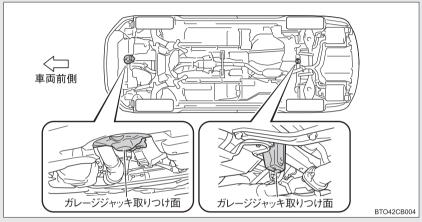
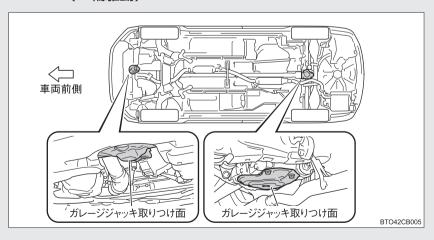
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

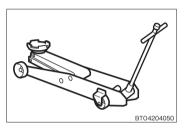
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取りつけてください。
正しい位置に取りつけないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ FF（前輪駆動）

■ 4WD（4 輪駆動）

警告

■車両を持ち上げるときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
自動車用ジャッキスタンドを硬い水平面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。

●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取りつけてください。
ガレージジャッキを正しく取りつけずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

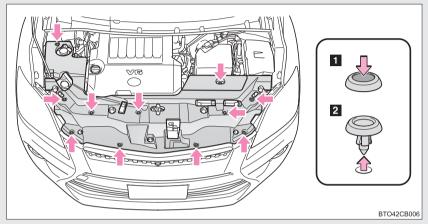
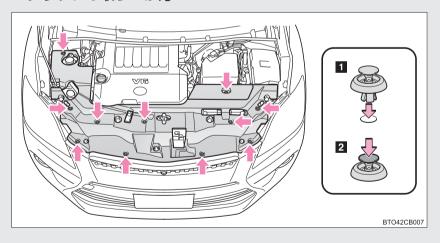
●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

■ クリップの取りつけ方

警告

■**けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■**エンジンルームカバーを取りつけたあとは**

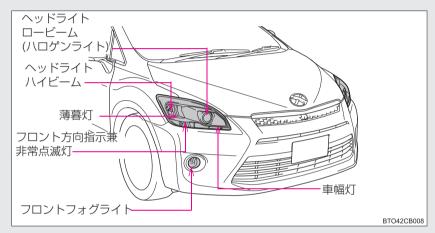
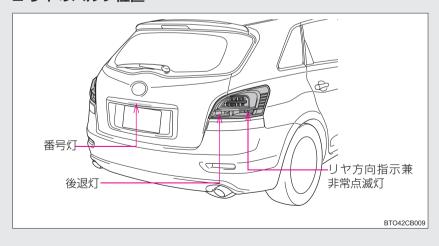
もとの場所に確実に取りつけられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

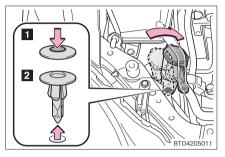
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確かめてください。(→P. 324)

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

電球交換の仕方

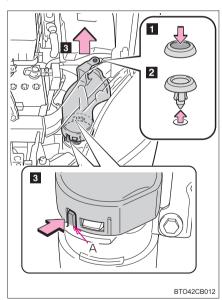
■ ヘッドライト ロービーム（ハロゲンライト）*

手順 1 電球を交換するには、

▶ 右側

ウォッシャー液補給口の位置を移動する。

1 クリップの中心を押す

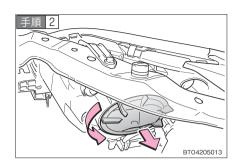
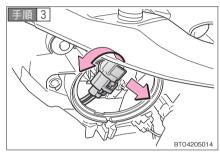
2 クリップを引き抜く

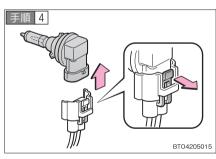
▶ 左側

エアクリーナーダクトをはずす。

1 クリップの中心を押す

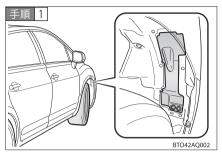
2 クリップを引き抜く

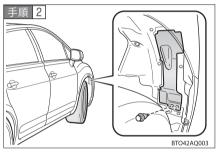
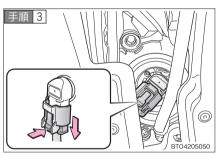
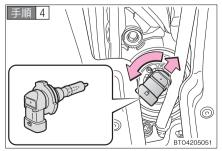
3 A 部を押しながらダクトをはずす

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カバーをはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

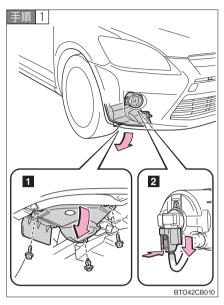
手順 5 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

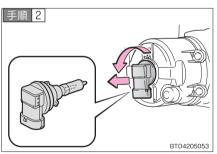
■ ヘッドライト ハイビーム

交換するライトの反対側へハンドルを回し、タイヤの向きをかえる。

右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へ、ハンドルを回します。

クリップをはずし、カバーをはずす。

コネクタを引き抜く。

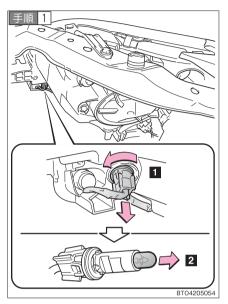
電球を取りはずす。

手順 5 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロントフォグライト

1 ボルトとクリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

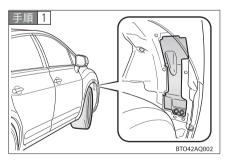
2 コネクタを引き抜く

電球を取りはずす。

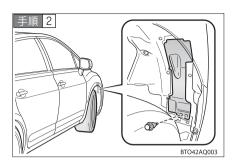
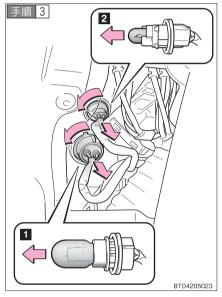
手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 車幅灯

1 ソケットを取りはずす

2 電球を取りはずす

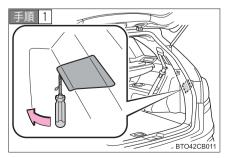
手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯、薄暮灯

交換するライトの反対側へハンドルを回し、タイヤの向きをかえる。

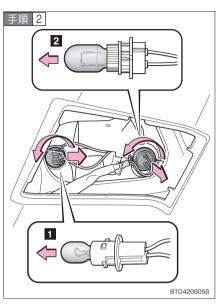
右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へ、ハンドルを回します。

クリップをはずし、カバーをはずす。

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

1 フロント方向指示兼非常点滅灯

2 薄暮灯

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 後退灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯

バックドアを開け、カバーを取りはずす。

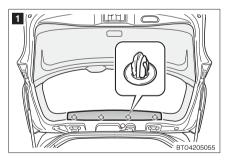
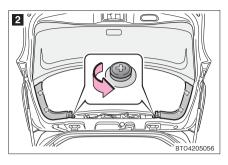
リヤクーラー装着車の右側は、リヤクーラー用ダクトをはずします。(→P. 250)

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

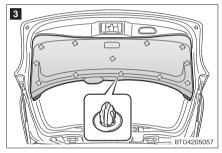
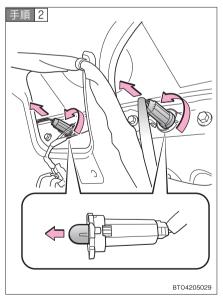
1 後退灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 番号灯

手順 1 電球を交換するには、

1 バックドア上部のカバーをはずす。

2 バックドア左右のカバーをはずす。

クリップ中央部をゆるめ、クリップをはずしてからカバーをはずします。

3 バックドア下部のカバーをはずす。

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト）

● サイド方向指示灯兼非常点滅灯

● 制動灯

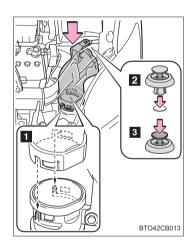
● 尾灯

● ハイマウントストップライト

知識

■ヘッドライト ロービームを交換したときは

必ずウォッシャー液補給口、またはエアクリーナーダクトをしっかり取りつけ、上部をクリップで固定してください。

●ダクト、クリップの取りつけ方

1 ダクトを取りつける

2 クリップを差し込む

3 クリップの中心を押す

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴がついている

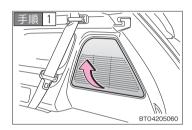
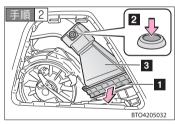
●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

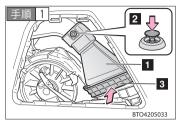
作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■右側の後退灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯を交換するときは（リヤクーラー装着車）

リヤクーラー用ダクトをはずしてから交換します。
交換後は、必ずリヤクーラーダクトをしっかり取りつけてください。

●リヤクーラーダクトの取りはずし方

ダクトカバーを下側から取りはずす

ダクトをはずす

1 ダクトのホルダーをはずす
2 クリップの中心を押し、クリップをはずす
3 ダクトをはずす

●リヤクーラーダクトの取りつけ方

ダクトを取りつける

1 ダクトを取りつける
2 クリップを差し込み、クリップの中心を押す
3 ダクトのホルダーを取りつける

手順 2

BTO4205059

ダクトカバーを上側から取りつける

■番号灯を交換するときは

バックドア左右のカバーをはずしたときに、バックドア側にカバー固定用のツメが残る場合があります。
カバーをもとにもどすときはそのツメをはずし、カバー側につけてからもとにもどしてください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取りつけてください。取りつけが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因となることがあります。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

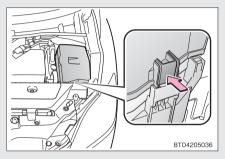
電球が正しい位置にしっかりと取りつけられていることを確認ください。

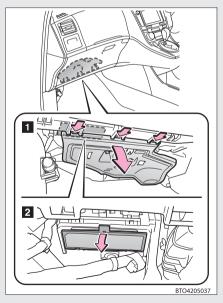
ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 " エンジン スタート ストップ " スイッチを OFF にする。

手順 2 ヒューズボックスを開ける。

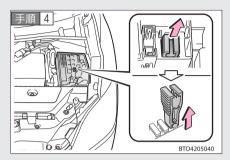
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

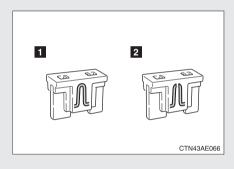
▶ 助手席足元

1 足元のカバーを取りはずす

カバーには足元照明*がついています。強く引っ張らないでください。

2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

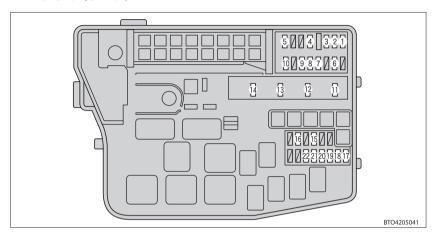
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 255）で確認する。

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 5 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

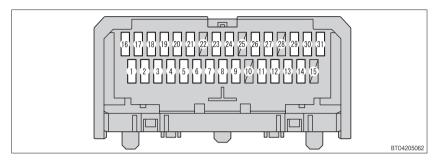
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	DOME	10 A	室内灯
2	RAD NO. 1	15 A	ナビゲーションシステム
3	ECU-B	10 A	メーター、ステアリングセンサー
4	ECU-B2	10 A	エアコン、パワーウインドウ、スマートエントリー＆スタートシステム
5	AMP	30 A	オーディオアンプ
6	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
7	AM2	30 A	始動系
8	ETCS	10 A	EFI システム
9	TURN-HAZ	10 A	方向指示灯、非常点滅灯
10	AM2 NO. 2	7.5 A	メインボデー ECU
11	IG2	15 A	EFI システム
12	HORN	10 A	ホーン
13	EFI MAIN	20 A	EFI システム、EFI NO.1、EFI NO.2、燃料ポンプ
14	A/F	20 A	EFI システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	FR DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
16	PSB	30 A	ー
17	H-LP LH LO	15 A ※1	左側ヘッドライト（ロービーム）
		10 A ※2	
18	H-LP RH LO	15 A ※1	右側ヘッドライト（ロービーム）
		10 A ※2	
19	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
20	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
21	EFI NO. 1	10 A	EFI システム
22	EFI NO. 2	10 A	EFI システム

※1：ヘッドライトロービームがＨＩＤ バルブ車

※2：ヘッドライトロービームがハロゲン バルブ車

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	SEAT HTR	15 A	シートヒーター
2	HTR-IG	10 A	エアコン、プラズマクラスター、リヤクーラー
3	WIPER	25 A	フロントワイパー
4	RR WIPER	15 A	リヤワイパー
5	WASHER	15 A	フロントウォッシャー、リヤウォッシャー
6	ECU-IG NO. 1	10 A	自動光軸調整システム、メインボデーECU、電動パワーステアリング、電動クーリングファン、シフトロックシステム、VSC、4WD システム、ステアリングセンサー、AFS、クルーズコントロール
7	ECU-IG NO. 2	10 A	後退灯、オルタネーター、リヤウインドウデフォッガー、エアコン、自動防眩ミラー、フロントワイパーデアイサー、シートベルトテンションリデューサー
8	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
9	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、VSC、メインボデー ECU、EFI システム、シフトロックシステム
10	―	―	―

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	DOOR	25 A	パワードアロックシステム
12	ACC-B	25 A	CIG、ACC
13	4WD	7.5 A	4WD システム
14	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
15	—	—	—
16	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、光軸調整システム、EFI システム
17	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、グローブボックスライト、シフト照明、ステアリングスイッチ
18	ECU-IG NO．3	7.5 A	クリアランスソナー、ナビゲーションシステム、AFS
19	FR DOOR	20 A	パワーウインドウ
20	RL DOOR	20 A	パワーウインドウ
21	RR DOOR	20 A	パワーウインドウ
22	—	—	—
23	CIG	15 A	アクセサリーソケット
24	ACC	7.5 A	電動ミラー、ナビゲーションシステム、メインボデー ECU、スマートエントリー＆スタートシステム、プッシュボタンスタート
25	—	—	—
26	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
27	WELCAB	30 A	ウェルキャブシステム
28	—	—	—
29	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
30	IGN	7.5 A	ステアリングロック、SRS エアバッグシステム、始動系、EFI システム
31	METER	7.5 A	メーター

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 240)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

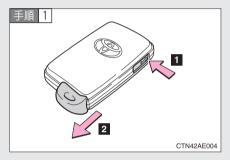
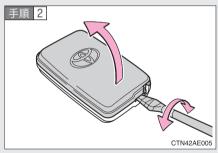
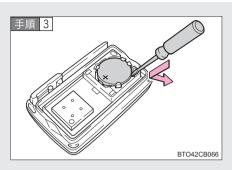
●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換の仕方

メカニカルキーを抜く。

カバーをはずす。

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取りつけます。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

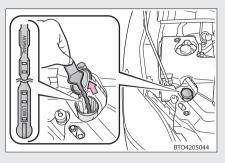
注意

■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

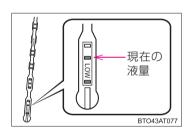
- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれをあてててからはずしてください。
  カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

BTO4205044

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

BTO43AT077

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

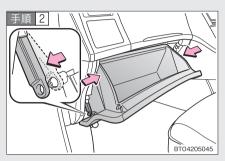
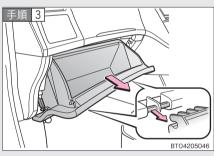
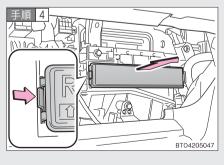
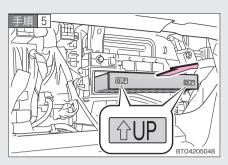
■**ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする。

グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす。

グローブボックスを持ち上げ、下部のツメをはずして取りはずす。

フィルターカバーを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取りつけます。

手順 6 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km[7,500km※] ごと

交換：30,000km[15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

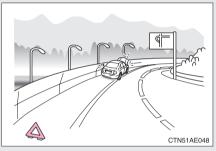
5-2. 緊急時の対処法

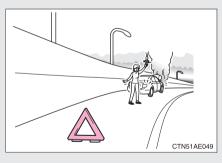
故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

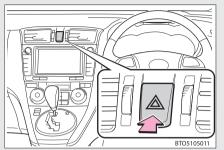
CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 269)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 270)

非常点滅灯

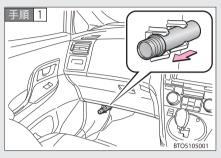
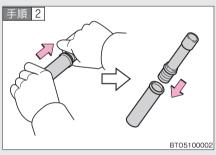
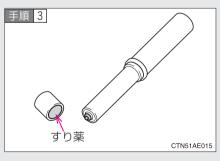
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- ●トンネル内
- ●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- ●発炎筒は、お子さまにさわらせない

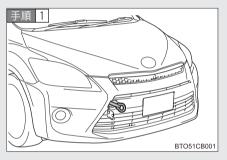
けん引について

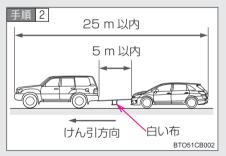
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布をつける。

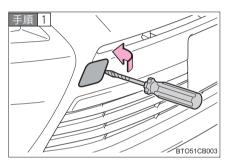
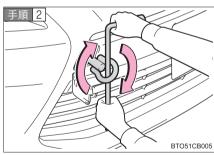
布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

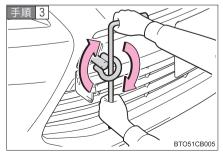
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

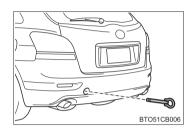
けん引フックの取りつけ方

マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす。

けん引フックを穴に差しこみ軽く締める。

前側には銀色の短いけん引フックを差しこみます。
うしろ側には黒色の長いけん引フックを差しこみます

ホイールナットレンチを使い確実に取りつける。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する

リヤ側のけん引フック（黒色）は、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引について

トーイング装置を装着する場合は、制動灯からの電源の取りかたに注意してください。

■けん引フックの収納位置

→P. 291

警告

■**けん引フックを車両に取りつけるとき**

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取りつけてください。
指定位置にしっかり取りつけないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■**車両を運搬するときは（4WD 車< 4 輪駆動車>）**

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■**他車をけん引するときは**

自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

- ●ワイヤーロープは使用しない
- ●速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- ●前進方向でけん引する
- ●サスペンション部などにロープをかけない

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダ（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
→P. 287

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	ディスチャージヘッドライト **オートレベリング警告灯＊** ・自動光軸調整システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	**開いているドアを閉める**
	運転席シートベルト非着用警告灯(警告ブザー)※ 運転席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯(警告ブザー)**※ 助手席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 283

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- ●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- ●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキチェック	**ブレーキ系統の異常**

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。
充電系チェック	**充電系統の異常**

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD システムチェック	**4WD システム＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ステアリング ロック システム確認	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
エアバッグ システム異常	**SRS エアバッグ / プリテンショナー付シートベルトシステムの異常**
エンジン システムチェック	**エンジン電子制御システム、電子制御スロットル、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常**

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
VSC システムチェック	**TRC、VSC の異常** 警告ブザーが鳴ります。
水温異常	**エンジン冷却水温の異常**
AFS システム異常 AFS OFF（点滅）	**AFS（アダプティブフロントライティングシステム）* の異常**
クルーズ システムチェック	**クルーズコントロールシステム * の異常** 警告ブザーが鳴ります。 ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
ソナーチェック	**クリアランスソナーの異常** 異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ドア開	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
パーキングブレーキ未解除 (点滅)	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が 10 km/h を超えた** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
ライトが点灯しています (点滅)	**ライト消し忘れ防止機能が働いていない** 警告ブザーが鳴ります。	ライトを消灯する
給油して下さい	**燃料の不足**	燃料残量を点検し、燃料を補給する
ソナー汚れ	**ソナー部に雪氷や泥などの付着** 汚れが付着しているソナー部が点滅し、警告ブザーが鳴ります。	汚れを取りのぞく。 ソナー部が汚れていないのに表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません (点滅)	電子キーを携帯していない状態かつ、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする または電子キーを携帯する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	シフトレバーを P にする
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを携帯する
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する。 （→P. 260）

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
なし	なし	エンジン始動時 ブレーキを 踏んで下さい (点滅)	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードに 2 回した	ブレーキを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
1 回	なし	ステアリング ロック 未解除 (点滅)	“エンジン スタート ストップ”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

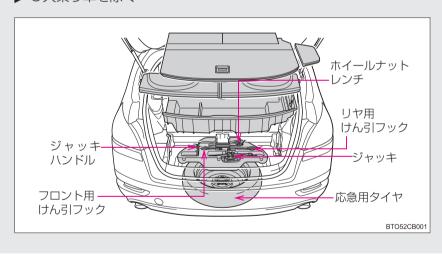
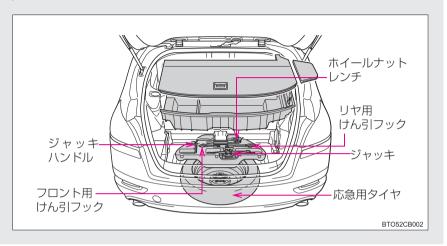
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備えつけの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 228 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

▶ 5人乗り車を除く

▶ ５人乗り車

工具箱、応急用タイヤの取り出しかた

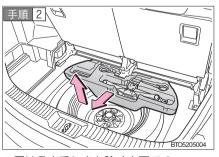
手順 1

▶ ５人乗り車を除く

デッキボード、デュアルトノボード *、デッキアンダーボックスの順に取りはずす。

▶ ５人乗り車

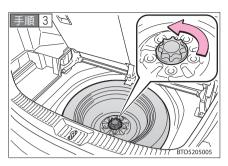
デッキボード、デッキアンダーボックスの順に取りはずす。

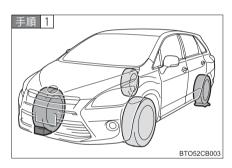
デッキアンダーボックスをはずす際、デッキボックスうしろ側のフタを開けます。

※図は５人乗り車を除く車両です。

工具箱を取りはずす。

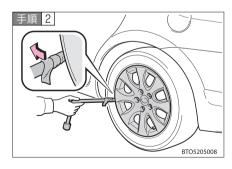
工具箱を手前に引き出して取りはずします。

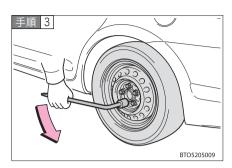
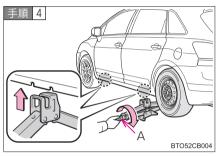
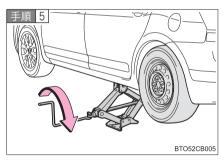
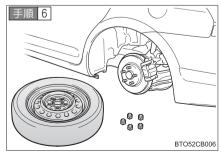
・格納するときは、しっかりと奥まで工具箱を押し込んでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

止め具をはずし、タイヤを取り出す。

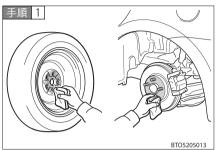
パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす。*

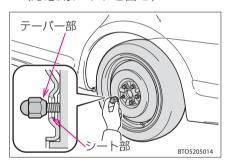
* スチールホイールのみ

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

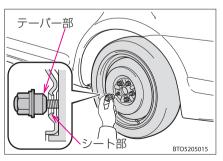
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

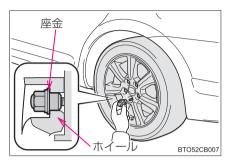
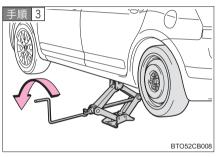
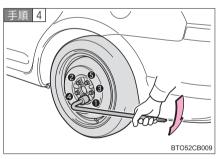
タイヤの取りつけ

ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

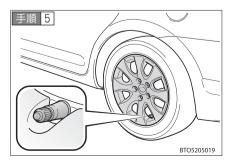
手順 2 タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す。

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す。

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで回す。

車体を下げる。

図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける。

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取りつける。*

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取りつける。

* スチールホイールのみ（応急用タイヤに取りつけることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 323)

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取りつけ、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

ケガを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。

●ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつける（→P. 231）

上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換ください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS &ブレーキアシスト

●TRC

●VSC

●クルーズコントロール*

●AFS *

●ナビゲーションシステム*

●バックガイドモニター*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 119）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 120）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 119）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→P. 79）

■ スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 307）
- バッテリーのターミナルが緩んでいる可能性があります。

■ スターターが回らない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 307）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の仕方がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを長押しする。

上記の手順にしたがいエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

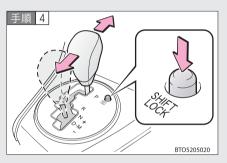
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 " エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す。

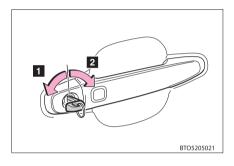
ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P. 32)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けること、エンジンを始動することができます。

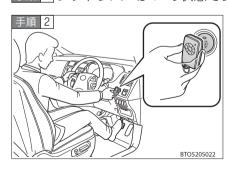
ドアの解錠・施錠

メカニカルキー (→P. 22) を使って操作します。

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。

手順 2

電子キーのトヨタエンブレム面で " エンジン スタート ストップ " スイッチに触れます。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが " エンジン スタート ストップ " スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 次の操作を行う

モードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→P. 119)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。

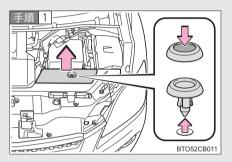
■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をお勧めします。(→P. 260)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリーつき救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

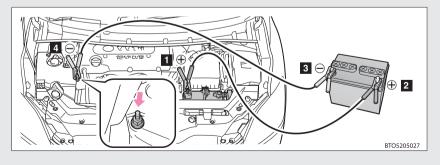
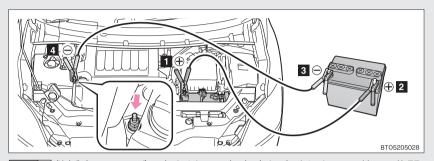
BTO52CB011

手順 1 バッテリーの上にあるカバーをはずす。

クリップをはずし、カバーを上げてはずします。

手順 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

BTO5205027

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

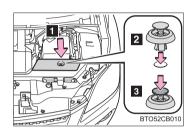
■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリー上部カバーの取りつけについて

しっかり取りつけ、上部をクリップで固定してください。

1 カバーを取りつける
2 クリップを差し込む
3 クリップの中心を押す

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

警告

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し､液(酸)が皮膚･衣服･車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合､ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
  また､医師の診断を受けるまで､水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

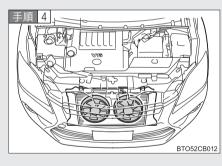
手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

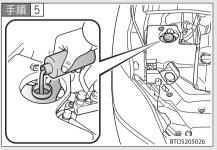
蒸気が出ている場合：
エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：
水温計の表示が H の位置から下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 238）

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●水温計の表示が H の位置で点滅したり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

▶ FF 車（前輪駆動）

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいとき、TRC または VSC を停止してください。(→P. 163)

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 4WD オートモードになっていることを確認する。(→P. 150)

手順 6 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいとき、TRC または VSC を停止してください。(→P. 163)

警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両の仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	2AZ-FE	60
無鉛プレミアムガソリン※ （無鉛ハイオク）	2GR-FE	

※：無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20※1 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2AZ-FE	4.1	4.3

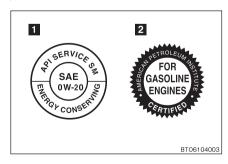
銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20※2 —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2GR-FE	5.7	6.1

※ 1：0W-20 は、新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

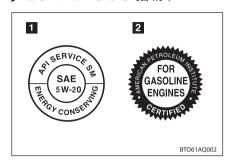
※ 2：5W-20 は、新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーフィケーション）マークがついています。

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

1 API マーク

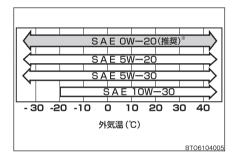
2 ILSAC CERTIFICATION マーク

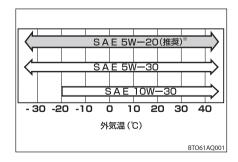
▶ 2GR-FE エンジン搭載車

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

※：0W-20 は、新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

※：5W-20 は、新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-30 の 30 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

<table>
<tr><th>銘柄</th><th>エンジン</th><th>容量 [L]
（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 30%　-12 ℃
濃度 50%　-35 ℃</td><td>2AZ-FE</td><td>6.2</td></tr>
<tr><td>2GR-FE</td><td>8.7</td></tr>
</table>

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　TC	2AZ-FE	8.7
トヨタ純正オートフルード　WS	2GR-FE	6.4

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル*

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

トランスファー*

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	72 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	2.5

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤ

タイヤサイズ			タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
			前後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	FF (前輪駆動車)	230 (2.3)
		4WD (4輪駆動車)	220 (2.2)
	225/45R18 91W		230 (2.3)
応急用タイヤ	T155/70D17 110M		420 (4.2)

ホイール

タイヤサイズ			ホイールサイズ
			前後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	FF (前輪駆動車)	16 × 6 1/2J
		4WD (4輪駆動車)	16 × 6 1/2J
	225/45R18 91W		18 × 7 1/2J
応急用タイヤ	T155/70D17 110M		17 × 4T

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドライト） ロービーム（バルブタイプ：H11）	 60 35 55
	車幅灯	5
	薄暮灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5

※ LEDは、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	フロントパーソナルライト （イルミネーションライト装着車）	LED ※
	フロントパーソナルライト （イルミネーションライト非装着車）	8
	リヤパーソナルライト （イルミネーションライト装着車）	LED ※
	ルームライト （イルミネーションライト非装着車）	8
	イルミネーションライト*	LED ※
	ラゲージルームライト	5
	フロント足元照明*	LED ※
	リヤ足元照明*	LED ※
	ドアカーテシライト	5
	グローブボックスライト	LED ※
	バニティライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ANA10	2AZ-FE （2.4L ガソリン）	FF（前輪駆動）
ANA15		4WD（4 輪駆動）
GGA10	2GR-FE （3.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 24)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
プッシュボタンスタート (→P. 33)	プッシュボタンスタート	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 38)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 141)	ライトセンサーの感度調整	レベル３	レベル１～５
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
クリアランスソナー (→P. 155)	バックソナーの 検知開始距離	約 150cm	約 60cm
	ブザー音量	レベル３	レベル１～５

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション（→P. 188）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

と

に

ね

は

症状別さくいん

■警告灯一覧

	ブレーキ警告灯	P. 279
	ABS& ブレーキアシスト警告灯	P. 280
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯	P. 280
	エンジン警告灯	P. 280
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯	P. 280
	半ドア警告灯	P. 281
	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 281
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	P. 281
	マスターウォーニング	P. 281
	パワーステアリング警告灯	P. 280
	充電警告灯	P. 279

警告メッセージが表示された

P. 283 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

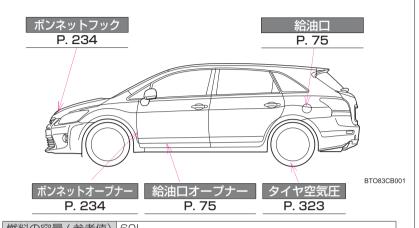
■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 279）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 283）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 30
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 127
	シフトダウンしたとき	P. 127
	ブレーキを踏んだとき	P. 117

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量 (参考値)</td><td>60L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td>無鉛レギュラーガソリン（2AZ-FE エンジン車）
無鉛プレミアムガソリン（2GR-FE エンジン車）
P. 76, 318</td></tr>
<tr><td>タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>標準タイヤ
<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>前後輪</td></tr>
<tr><td rowspan="2">215/60R16 95H</td><td>FF
(前輪駆動車)</td><td>230（2.3）
kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>4WD
(4 輪駆動車)</td><td>220（2.2）
kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">225/45R18 91W</td><td>230（2.3）
kPa (kg/cm^2)</td></tr>
</table>
応急用タイヤ ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
(参考値)</td><td>オイルのみ交換時
2AZ-FE エンジン車：4.1L
2GR-FE エンジン車：5.7 L
オイルとフィルター交換時
2AZ-FE エンジン車：4.3L
2GR-FE エンジン車：6.1 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td>トヨタ純正モーターオイル
・ SM5W-30（API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30）
・ SL5W-20（API SL、EC、SAE 5W-20）
・ SM10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30)
・ SL10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)
・ SM0W-20（API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ※</td></tr>
</table>

※：SAE 0W-20 は、2AZ-FE エンジン車のみ使用可能

ウ-14

M 72008
01999ー72008
CB-2011年２月７日
2011年２月14日 初版
マークX ジオ